

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料目次

資料 1	教育理念、教育目的、育成する人材像と 3 ポリシーとの関係の図	2
資料 2	学科の特色と開講科目との関連(カリキュラムツリー)	3
資料 3	資格取得該当科目	4
資料 4	履修モデル	5
資料 5	学外実習施設承諾書	9
資料 6	実習施設機関一覧	10
資料 7	学外実習の手引き	11
資料 8	個人情報保護に関する誓約書	22
資料 9	実習終了報告書	23
資料 10	インターンシップ実習受入先一覧	26
資料 11	カリキュラムとの資格取得対比表	27
資料 12	学校法人新潟総合学園就業規則(抄)	28
資料 13	専任教員別時間割案(令和 9 年度)	30
資料 14	完成年度の心理健康学科時間割案(令和 9 年度)	35
資料 15	教育上必要な機械器具の一覧	39
資料 16	閲覧可能な心理系学術雑誌一覧	41
資料 17	大学組織図	42
資料 18	2022 年度 FD・SD 推進委員会活動実績	43
資料 19	心理学基礎実験、心理学実験 シラバス	48
資料 20	就職支援体制	52

教育理念

教育基本法の精神のっとり、**人格の完成を目指し、心理学及び心身の健康に関する各分野の知識を授け、深く、かつ総合的に研究するとともに、新しい文化の創造と、平和で民主的な国家及び社会の形成を期し、人類の福祉の向上に寄与すること**

教育目的

心理学分野および隣接分野の教育・研究をとおして、人間を統合的に理解するための**幅広い教養や心身の健康に関する専門的な知識や技能を修得し、人と社会における課題を発見しその解決に向けて取り組む能力を身につける**ことによって、**人々のQOLの向上を支援し、人々の多様性や個性を尊重し合い、支え合い、多様なあり方を認め合うことのできる共生社会の推進に貢献すること**

育成する人材像

- ・心理学及び心身の健康に関する知見と方法を学び、論理的・批判的な思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、発見的理解の習慣を自ら育むことができる。
- ・人間と社会の諸問題にたえず関心を寄せ、あくなき探求心と豊かな共感力を有し、積極的なリーダーシップと行動力で、問題解決に取り組むことができる。
- ・豊かな人間性と倫理観を有し、人類と社会の調和的發展とウェルビーイングに貢献できる。

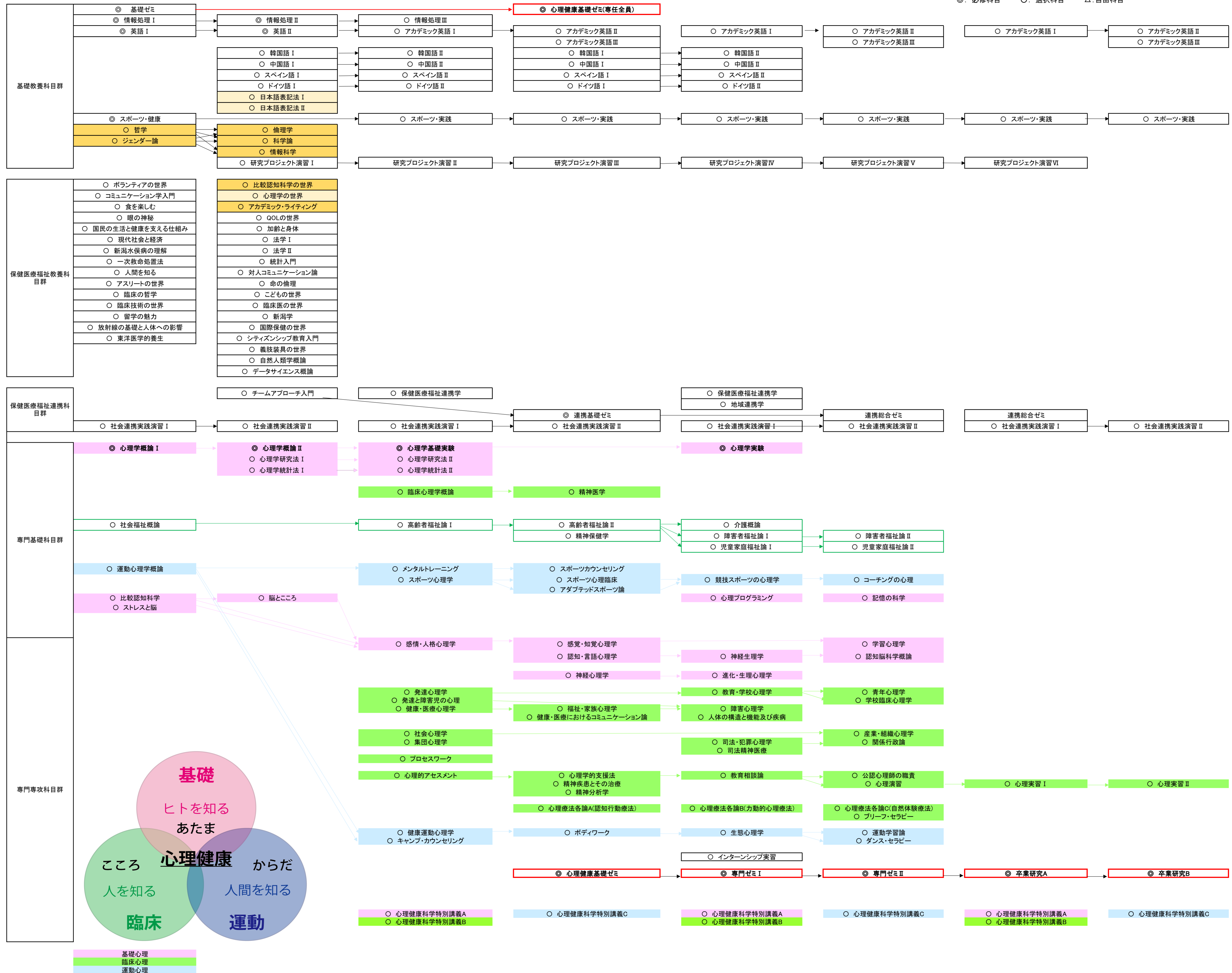
ディプロマ・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

アドミッション ポリシー

Science & Art 科学知識と技術を 活用する力	心理学に関する専門知識や技能を、人の理解や心身の健康支援に活かすことができる。また、 自ら心理学や心身の健康に関する情報を収集・整理でき、論理的・批判的思考に基づく判断 ができる。	心理学の学問体系を基盤とし、心身の健康に関して体系的に科目を編成しており、 年次進行に沿って基礎的な科目から応用・発展的な科目を学修 できるように専門基礎科目群、専門専攻科目群を配置している。また、2年次に心理学基礎実験、3年次に心理学実験を配置し、体験的学習を通して心理学の専門性を高められるように編成している。その成果は、認定心理士認定資格細則が指定する心理学関係科目の成績により評価する。	基礎的な文章理解力や数的理解力として高等学校卒業相当の英語・国語など、入学者選抜試験にて出題する教科・科目の 基礎学力 を有する。
Teamwork & Leadership チームワークと リーダーシップ	多様な人々と 良好なコミュニケーション をとり、連携を図ることができる。 組織や地域社会、または国際社会の一員としての役割 を果たすことができる。 円滑なコミュニケーション能力と積極的なリーダーシップ及び行動力 で問題解決に取り組むことができる。	学生が主体的・能動的に学び、 チームワークやコミュニケーション能力 を養えるように、保健医療福祉連携科目群として、2年次に連携基礎ゼミを必修科目として配置し、1～3年次にチームアプローチ入門、保健医療福祉連携学、地域連携学と3～4年次連携総合ゼミから2単位必修とする。また、3年次からは、専門専攻科目群として、実習・演習関連科目（インターンシップ実習、心理実習、専門ゼミⅠ・Ⅱ）を配置し、 円滑なコミュニケーション能力と積極的なリーダーシップ及び行動力 を向上できるように編成している。その成果は、専門ゼミおよびインターンシップ実習の成績により評価する。	他者と積極的に コミュニケーション を図り、 協調する姿勢 を有する。
Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と倫理観に基づいて、 人々の多様性や個性を尊重 できる。また、 人々の多様性や個性を尊重する姿勢 を人の支援に活かし、 人類と社会の調和的發展とウェルビーイングに寄与 することができる。	心理専門職に相応しい倫理観を修得し、 人々の多様性や個性を尊重する姿勢 を養えるように、1年次から基礎教養科目群、専門基礎科目群として哲学、倫理学、ジェンダー論、科学論、情報科学、心理学研究方法を配置する。また、3年次からは演習科目（専門ゼミⅠ、Ⅱ）や実習関連科目（インターンシップ実習、心理実習Ⅰ・Ⅱ）を配置し、 人々の多様性を尊重し、人を支援する力を修得 できるように編成している。その成果は、心理学実験、心理実習およびインターンシップ実習の成績により評価する。	他者の 価値観を尊重 し、支援したいという意志を有する。
Problem-solving 問題を解決する力	心理学や心身の健康に関する課題に関心をもち、理論と実践を結び付けながら人間や社会の問題解決に向けて取り組むことができ、 自ら問題を発見し解決する発見的理解 ができる。	地域社会における多様な課題 に触れる機会を提供するため、1年次に保健医療福祉教養科目群や哲学、倫理学、ジェンダー論等の広い教養を育む科目を配置する。3年次からは理論と実践を結び付けながら 学生自らが問題解決に向けて取り組む力 を修得するために演習科目（専門ゼミⅠ、Ⅱ）や実習関連科目（インターンシップ実習、心理実習Ⅰ・Ⅱ）を配置し、 発見的理解力 を活かし、4年次に卒業研究A・Bを実施する。その成果は、卒業研究の成績により評価する。	人間の心理や心身の健康に関する 課題の解決に向けて取り組む意欲 を有する。
Self-realization 自己実現意欲	人間や社会の変化にたえず関心をもち、自ら学び続ける意欲を持ち続け、心理学や心身の健康に関する専門性を活かして、 人類と社会の平和に貢献する意欲 を持つことができる。	幅広い視野と自律的な学修姿勢 を身に付けるため、1年次からゼミ活動を実施する。2年次からは心理学や心身の健康の専門基礎科目群と専門専攻科目群を配置し、3年次からは演習科目（専門ゼミⅠ、Ⅱ）や実習関連科目（インターンシップ実習、心理実習Ⅰ・Ⅱ）を、4年次に卒業研究A・Bを配置し、 自らの興味・関心に基づく専門性を活かして社会に貢献する能力 を涵養する。その成果は、就職率により評価する	人間の心理や心身の健康に 強い関心 を持ち、専門性を活かして 社会に貢献する意欲 を有する。

◎: 必修科目 ○: 選択科目 △: 自由科目



〔資料3〕 心理健康学科カリキュラムにおける、公認心理師および社会福祉主事任用資格取得該当科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			資格		専任等区分	備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	公認心理師	社会福祉主事任用			
専門基礎科目群	心理学概論Ⅰ	1前	2			○			●	●	専任		
	心理学概論Ⅱ	1後	2			○			●	●	専任		
	臨床心理学概論	2前		2		○			●		専任		
	運動心理学概論	1前		2		○					専任		
	心理学研究法Ⅰ	1後		2		○			●		専任		
	心理学研究法Ⅱ	2前		2		○			●		専任		
	心理学統計法Ⅰ	1後		2		○			●		専任		
	心理学統計法Ⅱ	2前		2		○			●		専任		
	心理学基礎実験	2前	2					○				専任	
	心理学実験	3前	2					○	●			専任	
	比較認知科学	1前		2		○						専任	
	記憶の科学	3後		2								兼任	
	ストレスと脳	1前		2		○						専任	
	脳とこころ	1後		2								専任	
	心理プログラミング	3前		2								専任	
	精神医学	2後		2								兼任	
	メンタルトレーニング	2前		2		○						専任	
	スポーツ心理臨床	2後		2		○						専任	
	コーチングの心理	3後		2								専任	
	スポーツ心理学	2前		2								兼任	
	競技スポーツの心理学	3前		2								兼任	
	スポーツカウンセリング	2後		2								兼任	
	アダプテッドスポーツ論	2後		2								兼任	
	社会福祉概論	1前		2		○					●	兼任	
	精神保健学	2後		2		○					●	兼任	
	介護概論	3前		2		○						兼任	
	高齢者福祉論Ⅰ	2前		2		○						兼任	
	高齢者福祉論Ⅱ	2後		2		○						兼任	
	児童家庭福祉論Ⅰ	3前		2		○						兼任	
	児童家庭福祉論Ⅱ	3後		2		○						兼任	
	障害者福祉論Ⅰ	3前		2		○						兼任	
	障害者福祉論Ⅱ	3後		2		○						兼任	
	専門専攻科目群	感覚・知覚心理学	2後	2			○			●		専任	
認知・言語心理学		2後	2			○			●		専任		
学習心理学		3後	2			○			●		専任		
感情・人格心理学		2前	2			○			●		専任		
神経心理学		2後	2			○			●		専任		
進化・生理心理学		3前	2			○			●		専任		
発達心理学		2前	2			○			●		専任		
教育・学校心理学		3前	2			○			●		専任		
青年心理学		3後	2			○			●		兼任		
健康・医療心理学		2前	2			○			●		専任		
福祉・家族心理学		2後	2			○			●		専任		
障害心理学		3前	2			○			●		専任		
社会心理学		2前	2			○			●		専任		
集団心理学		2前	2			○			●		専任		
産業・組織心理学		3後	2			○			●		兼任		
心理的アセスメント		2前	2			○			●		専任		
心理学的支援法		2後	2			○			●		専任		
司法・犯罪心理学		3前	2			○			●		兼任		
人体の構造と機能及び疾病		3前	2			○			●		兼任		
精神疾患とその治療		2後	2			○			●		兼任		
関係行政論		3後	2			○			●		兼任		
公認心理師の職責		3後	2			○			●		専任		
認知脳科学概論		3後	2			○					兼任		
神経生理学		3前	2			○					兼任		
生態心理学		3前	2			○					兼任		
心理療法各論A(認知行動療法)		2後	2			○					専任		
心理療法各論B(力動的心理療法)		3前	2			○					専任		
心理療法各論C(自然体験療法)		3後	2			○					兼任		
司法精神医療		3前	2			○					専任		
ブリーフ・セラピー		3後	2			○					専任		
プロセスワーク		2前	2			○					兼任		
教育相談論		3前	2			○					専任		
学校臨床心理学		3後	2			○					兼任		
精神分析学		2後	2			○					専任		
発達と障害児の心理		2前	2			○					専任		
健康・医療におけるコミュニケーション論		2後	2			○					兼任		
運動学習論		3後	2			○					専任		
健康運動心理学		2前	2			○					専任		
ダンス・セラピー		3後	2			○					兼任		
ボディワーク		2後	1					○			兼任		
キャンプ・カウンセリング		2前	1					○			兼任		
心理健康科学特別講義A		2・3・4前	1			○					兼任		
心理健康科学特別講義B		2・3・4前	1			○					兼任		
心理健康科学特別講義C		2・3・4後	1			○					兼任		
心理演習		3後	1					○	●		専任		
心理実習Ⅰ		4前	1					○	●		専任		
心理実習Ⅱ		4後	1					○	●		専任		
インターンシップ実習	3前	1					○			専任			
心理健康基礎ゼミ	2後	1					○			専任			
専門ゼミⅠ	3前	1					○			専任			
専門ゼミⅡ	3後	1					○			専任			
卒業研究A	4前	3					○			専任			
卒業研究B	4後	3					○			専任			

〔資料4〕 履修モデル：公認心理師資格取得を目指し、卒後に養成プログラムのある病院・機関へ就職。もしくは養成大学院へ進学するタイプ

養成する人材像

- ①心理学及び心身の健康に関する知見と方法を学び、論理的・批判的な思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、発見的理解の習慣を自ら育むことができる。
- ②人間と社会の諸問題にたえず関心を寄せ、あくなき探求心と豊かな共感力を有し、積極的なリーダーシップと行動力で、問題解決に取り組むことができる。
- ③豊かな人間性と倫理観を有し、人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる。

◎：必修科目 ○：選択科目 △：自由科目

		1年次						2年次						3年次						4年次					
		前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期		
		授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数
基礎 教養 科目 群	必修 6単位	◎ 基礎ゼミ ◎ 情報処理Ⅰ ◎ 英語Ⅰ ◎ スポーツ健康 ○ 哲学	②③ ③ ③ ②③ ①③	1 1 1 1 1	◎ 情報処理Ⅱ ◎ 英語Ⅱ ○ 日本語表現Ⅰ ○ 日本語表現Ⅱ ○ 倫理学	③ ③ ③ ③ ①③	1 1 1 1 1																		
	選択 10単位以上																								
保健 医療 福祉 教養 科目 群	必修 1単位	○ ボランティアの世界 ○ コミュニケーション学入門 ○ 人間を知る ○ 国民の生活と健康を支える仕組み ○ 比較認知科学の世界	② ② ② ② ①②	1 1 1 1 1	○ 対人コミュニケーション論 ○ 心理学の世界 ○ QOLの世界 ○ こどもの世界 ○ 統計入門 ○ アカデミック・ライティング	② ①② ② ② ② ②	1 1 1 1 1 1																		
	選択 14単位以上																								
福祉 連携 科目 群					○ チームアプローチ入門	②③	1	○ 保健医療福祉連携学	②③	1	◎ 連携基礎ゼミ	②③	1												
専門 基礎 科目 群	必修 8単位	◎ 心理学概論Ⅰ ○ 運動心理学概論 ○ 比較認知科学 ○ ストレスと脳 ○ 社会福祉概論	① ① ①② ①② ②③	2 2 2 2 2	◎ 心理学概論Ⅱ ○ 心理学研究法Ⅰ ○ 心理学研究法Ⅱ ○ 心理学統計法Ⅰ ○ 脳とこころ	① ①② ①② ①② ①②	2 2 2 2 2	○ 臨床心理学概論 ○ 心理学研究法Ⅱ ○ 心理学統計法Ⅱ ◎ 心理学基礎実験 ○ スポーツ心理学 ○ メンタルトレーニング	① ①② ①② ①②③ ①② ①②	2 2 2 2 2 2	○ 精神医学 ○ 精神保健学	①② ①②	2 2	◎ 心理学実験 ○ 心理プログラミング	①②③ ①②	2 2	○ 記憶の科学 ○ コーチングの心理	①② ①②	2 2						
	選択 42単位以上																								
専門 専攻 科目 群	必修 9単位				○ 感情・人格心理学 ○ 発達心理学 ○ 健康・医療心理学 ○ 社会心理学 ○ 心理的アセスメント	①② ①② ①② ①② ①②③	2 2 2 2 2	○ 感覚・知覚心理学 ○ 認知・言語心理学 ○ 神経心理学 ○ 心理療法各論A(認知行動療法) ○ 福祉・家族心理学 ○ 心理学的支援法 ○ 精神疾患とその治療 ○ 精神分析学 ◎ 心理健康基礎ゼミ	①② ①② ①② ①② ①② ①② ①② ①②③	2 2 2 2 2 2 2 1	○ 進化・生理心理学 ○ 教育・学校心理学 ○ 障害心理学 ○ 司法・犯罪心理学 ○ 人体の構造と機能及び疾病 ○ 神経科学 ○ 心理療法各論B(力動的心理療法) ○ 心理健康学科特別講義B ◎ 専門ゼミⅠ	①② ①② ①② ①② ①② ①② ①②③	2 2 2 2 2 2 1 1	○ 学習心理学 ○ 青年心理学 ○ 産業・組織心理学 ○ 関係行政論 ○ 公認心理師の職務 ○ 心理演習 ◎ 専門ゼミⅡ	①② ①② ①② ①② ①② ①②③	2 2 2 2 2 2 1 1	○ 心理実習Ⅰ ◎ 卒業研究A	①②③ ①②③	2 2	○ 心理実習Ⅱ ◎ 卒業研究B	①②③ ①②③	1 3			
	選択 62単位以上																								

学期修得単位数 計 20

20

1年次修得単位数 計 40

23

2年次修得単位数 計 45

20

3年次修得単位数 計 36

4

4年次修得単位数 計 8

本モデルの修得単位数 合計 129

<卒業要件>
必修 24単位
選択 104単位
合計 128単位以上

(資料4) 履修モデル：社会福祉主事任用資格を取得し、相談援助に有効な心理学の知識・技術を備え福祉施設等の就職を目指すタイプ

養成する人材像

- ①心理学及び心身の健康に関する知見と方法を学び、論理的・批判的な思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、発見的学習の習慣を自ら育むことができる。
- ②人間と社会の諸問題にたえず関心を寄せ、あくなき探求心と豊かな共感性を有し、積極的なリーダーシップと行動力で、問題解決に取り組むことができる。
- ③豊かな人間性と倫理観を有し、人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる。

◎：必修科目 ○：選択科目 △：自由科目

科目群	必修/選択	1年次						2年次						3年次						4年次					
		前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期		
		授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数
基礎教養科目群	必修 6単位	◎ 基礎ゼミ ◎ 情報処理Ⅰ ◎ 英語Ⅰ ◎ スポーツ健康 ○ 哲学 ○ ジェンダー学	②③ ③ ③ ②③ ①③ ②③	1 1 1 1 1 1	◎ 情報処理Ⅱ ◎ 英語Ⅱ ○ 倫理学 ○ 科学論	③ ③ ①③ ②③	1 1 1 1																		
	選択 10単位以上																								
保健医療福祉教養科目群	必修 1単位	○ ボランティアの世界 ○ コミュニケーション入門 ○ 人間を知る ○ 国民の生活と健康を支える仕組み ○ 比較認知科学の世界	② ② ② ② ①②	1 1 1 1 1	◎ 対人コミュニケーション論 ○ 心理学の世界 ○ QOLの世界 ○ こどもの世界 ○ 加齢と身体 ○ アカデミック・ライティング	② ①② ② ② ② ②	1 1 1 1 1 1																		
	選択 14単位以上																								
福祉保健医療連携					○ チームアプローチャイム	②③	1	○ 保健医療福祉連携学	②③	1	◎ 連携基礎ゼミ	②③	1												
専門基礎科目群	必修 8単位	◎ 心理学概論Ⅰ ○ 比較認知科学 ○ 社会福祉概論	① ①② ②③	2 2 2	◎ 心理学概論Ⅱ ◎ 心理学研究法Ⅰ ◎ 心理学研究法Ⅱ ◎ 心理学統計法Ⅰ ◎ 脳とこころ	① ①② ①② ①② ①②	2 2 2 2 2	◎ 臨床心理学概論 ◎ 心理学研究法Ⅰ ◎ 心理学研究法Ⅱ ◎ 心理学統計法Ⅱ ◎ 心理学基礎実験 ○ 高齢者福祉Ⅰ	① ①② ①② ①② ①②③ ②③	2 2 2 2 2 2	◎ アダプテッドスポーツ論 ◎ 精神保健学 ◎ 高齢者福祉Ⅱ	①② ①② ②③	2 2 2	◎ 心理学実験 ◎ 介護概論 ◎ 児童家庭福祉Ⅰ ○ 障害者福祉Ⅰ	①②③ ②③ ②③ ②③	2 2 2 2	◎ 精神医学 ◎ 児童家庭福祉Ⅱ ◎ 障害者福祉Ⅱ	①② ②③ ②③	2 2 2						
	選択 42単位以上																								
専門専攻科目群	必修 9単位				○ 感情・人格心理学 ○ 発達心理学 ○ 社会心理学 ○ 集団心理学 ○ 心理的アセスメント ○ 発達と障害児の心理	①② ①② ①② ①② ①②③ ①②	2 2 2 2 2 2	○ 感情・人格心理学 ○ 発達心理学 ○ 社会心理学 ○ 集団心理学 ○ 心理的アセスメント ○ 発達と障害児の心理	①② ①② ①② ①② ①②③ ①②	2 2 2 2 2 2	◎ 神経心理学 ◎ 福祉・家族心理学 ◎ 心理学的支援法 ◎ 精神疾患とその治療 ◎ 心理療法各論A(認知行動療法) ◎ 精神分析学 ◎ 健康・医療におけるコミュニケーション論 ◎ 心理健康基礎ゼミ	①② ①② ①② ①② ①② ①② ①②③	2 2 2 2 2 2 1	◎ 進化・生理心理学 ◎ 青年心理学 ◎ 健康・医療心理学 ◎ 障害心理学 ◎ 人体の構造と機能及び疾病 ◎ 心理療法各論B(力動的心理学療法) ◎ 教育相談論 ◎ 心理健康科学特別講義B ○ インターンシップ実習 ◎ 専門ゼミⅠ	①② ①② ①② ①② ①② ①②③ ①②③	2 2 2 2 2 2 1 1 1	◎ 学習心理学 ◎ 関係行政論 ◎ プリープ・セラピー ◎ 心理演習 ◎ 心理療法各論C(自然体験療法) ◎ 専門ゼミⅡ	①② ①② ①② ①② ①②③ ①②③	2 2 2 2 2 1	◎ 卒業研究A	①②③	3	◎ 卒業研究B	①②③	3
	選択 62単位以上																								

<卒業要件>
必修 24単位
選択 104単位
合計 128単位以上

1年次修得単位数 計 36

2年次修得単位数 計 45

3年次修得単位数 計 41

4年次修得単位数 計 6

本モデルの修得単位数 合計 128

〔資料4〕 履修モデル：認定心理士を取得し、スポーツ心理学の知識と技術を備えスポーツ施設等でスポーツに関する心理支援に携わるタイプ

養成する人材像

- ①心理学及び心身の健康に関する知見と方法を学び、論理的・批判的な思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、発見的理解の習慣を自ら育むことができる。
- ②人間と社会の諸問題にたえず関心を寄せ、あくなき探求心と豊かな共感力を有し、積極的なリーダーシップと行動力で、問題解決に取り組むことができる。
- ③豊かな人間性と倫理観を有し、人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる。

◎：必修科目 ○：選択科目 △：自由科目

		1年次						2年次						3年次						4年次													
		前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期										
		授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数								
基礎 教養 科目 群	必修 6単位 選択 10単位以上	◎ 基礎ゼミ	②③	1	◎ 情報処理Ⅱ	③	1	○ スポーツ・実践																									
		◎ 情報処理Ⅰ	③	1	◎ 英語Ⅱ	③	1																										
保健 医療 福祉 教養 科目 群	必修 1単位 選択 14単位以上	○ コミュニケーション学入門	②	1	◎ 対人コミュニケーション論	②	1																										
		○ 人間を知る	②	1	○ 心理学の世界	①②	1																										
保健 医療 福祉 科目 群	必修 8単位 選択 42単位以上	○ アスリートの世界	①②	1	○ QOLの世界	②	1																										
		○ 国民の生活と健康を支える仕組み	②	1	○ 加齢と身体	②	1																										
専門 基礎 科目 群	必修 8単位 選択 42単位以上	○ 現代社会と経済	②	1	○ 統計入門	②	1																										
		○ チームアプローチ入門	②③	1	○ アカデミック・ライティング	②	1	○ 保健医療福祉連携学	②③	1	◎ 連携基礎ゼミ	②③	1																				
専門 専攻 科目 群	必修 9単位 選択 62単位以上	◎ 心理学概論Ⅰ	①	2	◎ 心理学概論Ⅱ	①	2	○ 心理学研究法Ⅱ	①②	2	◎ 精神医学	①②	2	◎ 心理学実験	①②③	2	○ 記憶の科学	①②	2														
		○ 比較認知科学	①②	2	○ 心理学研究法Ⅰ	①②	2	○ メンタルトレーニング	①②	2	○ スポーツ心理臨床	①②	2	○ 心理プログラミング	①②	2	○ コーチングの心理	①②	2														
専門 専攻 科目 群	必修 9単位 選択 62単位以上	○ 運動心理学概論	①	2	○ スポーツ心理学	①②	2	○ スポーツ心理学	①②	2	○ スポーツカウンセリング	①②	2	○ 競技スポーツの心理学	①②	2																	
		○ ストレスと脳	②③	2	○ 心理学統計法Ⅰ	①②	2	○ 心理学統計法Ⅱ	①②	2	◎ アダプテッドスポーツ論	②③	2																				
専門 専攻 科目 群	必修 9単位 選択 62単位以上	○ 発達心理学	①②	2	○ 感覚・知覚心理学	①②	2	○ 感覚・知覚心理学	①②	2	○ 進化・生理心理学	①②	2	○ 学習心理学	①②	2	◎ 卒業研究A	①②③	3	◎ 卒業研究B	①②③	3											
		○ 集団心理学	①②	2	○ 認知・言語心理学	①②	2	○ 認知・言語心理学	①②	2	○ 生態心理学	①②	2	○ 認知脳科学概論	①②	2																	
専門 専攻 科目 群	必修 9単位 選択 62単位以上	○ 健康・医療心理学	①②	2	○ 神経心理学	①②	2	○ 神経心理学	①②	2	○ 神経心理学	①②	2	○ 青年心理学	①②	2																	
		○ 健康運動心理学	①②	2	○ 福祉・家族心理学	①②	2	○ 福祉・家族心理学	①②	2	○ 教育・学校心理学	①②	2	○ 産業・組織心理学	①②	2																	
専門 専攻 科目 群	必修 9単位 選択 62単位以上	○ キャンプカウンセリング	①②	2	○ 心理療法各論A(認知行動療法)	①②	1	○ 心理療法各論A(認知行動療法)	①②	1	○ 障害心理学	①②	2	○ 学校臨床心理学	①②	2																	
					◎ 心理健康基礎ゼミ	①②③	1	◎ ボディワーク	①②	1	○ 人間の構造と機能及び疾病	①②	1	○ 運動学習論	①②	2																	
専門 専攻 科目 群	必修 9単位 選択 62単位以上												○ インターンシップ実習	①②③	1	○ ダンス・セラピー	①②	2															
														◎ 専門ゼミⅠ	①②③	1	○ 専門ゼミⅡ	①②③	1														
専門 専攻 科目 群	必修 9単位 選択 62単位以上																																
		学期修得単位数 計			19	学期修得単位数 計			18	学期修得単位数 計			21	学期修得単位数 計			21	学期修得単位数 計			21	学期修得単位数 計			22	学期修得単位数 計			3	学期修得単位数 計			3
		1年次修得単位数 計			37	2年次修得単位数 計			42	3年次修得単位数 計			43	4年次修得単位数 計			6	本モデルの修得単位数 合計			128												

<卒業要件>
必修 24単位
選択 104単位
合計 128単位以上

本モデルの修得単位数 合計 128

〔資料4〕 履修モデル：認定心理士を取得し心理学の知識と技術を備えた者として地域の企業、施設、団体等で心理支援に携わるタイプ

養成する人材像

- ①心理学及び心身の健康に関する知見と方法を学び、論理的・批判的な思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、発見的理解の習慣を自ら育むことができる。
- ②人間と社会の諸問題にたえず関心を寄せ、あくなき探求心と豊かな共感力を有し、積極的なリーダーシップと行動力で、問題解決に取り組むことができる。
- ③豊かな人間性と倫理観を有し、人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる。

◎：必修科目 ○：選択科目 △：自由科目

		1年次						2年次						3年次						4年次					
		前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期		
		授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数
基礎 教養 科目 群	必修 6単位	◎ 基礎ゼミ ◎ 情報処理Ⅰ ◎ 英語Ⅰ ◎ スポーツ・健康 ○ 哲学	②③ ③ ③ ②③ ①③	1 1 1 1 1	◎ 情報処理Ⅱ ◎ 英語Ⅱ ○ 倫理学 ○ 日本語表現Ⅰ ○ 日本語表現Ⅱ	③ ③ ①③ ①② ①②	1 1 1 1 1																		
	選択 10単位以上																								
保健 医療 福祉 教養 科目 群	必修 1単位	○ コミュニケーション学入門 ○ 人間を知る ○ 国民の生活と健康を支える仕組み ○ 比較認知科学の世界	② ② ② ①②	1 1 1 1	◎ 対人コミュニケーション論 ○ 心理学の世界 ○ 国際保健の世界 ○ QOLの世界 ○ 新導学 ○ 統計入門 ○ アカデミック・ライティング	② ①② ② ② ② ② ②	1 1 1 1 1 1 1																		
	選択 14単位以上																								
福祉 連携 科目 群					○ チームアプローチ入門	②③	1	○ 保健医療福祉連携学	②③	1	◎ 連携基礎ゼミ	②③	1												
専門 基礎 科目 群	必修 8単位	◎ 心理学概論Ⅰ ○ 比較認知科学 ○ ストレスと脳 ○ 社会福祉概論	① ①② ①② ②③	2 2 2 2	◎ 心理学概論Ⅱ ○ 心理学研究法Ⅰ ○ 心理学統計法Ⅰ ○ 脳とこころ	① ①② ①② ①②	2 2 2 2	◎ 心理学研究法Ⅱ ○ 心理学統計法Ⅱ ○ メンタルトレーニング ○ スポーツ心理学 ◎ 心理学基礎実験	①② ①② ①② ①② ①②③	2 2 2 2 2	◎ 精神医学 ○ スポーツ心理臨床 ○ スポーツカウンセリング ○ アダプテッドスポーツ論 ○ 精神保健学	①② ①② ①② ①② ①②	2 2 2 2 2	◎ 心理学実験 ○ 心理プログラミング ○ 競技スポーツの心理学	①②③ ①② ①②	2 2 2	○ 記憶の科学 ○ コーチングの心理	①② ①②	2 2						
	選択 42単位以上																								
専門 専攻 科目 群	必修 9単位				○ 感情・人格心理学 ○ 発達心理学 ○ 集団心理学 ○ 健康運動心理学 ○ キャンプカウンセリング	①② ①② ①② ①② ①②	2 2 2 2 2	○ 感覚・知覚心理学 ○ 認知・言語心理学 ○ 神経心理学 ○ 心理学的支援法 ○ ボディワーク	①② ①② ①② ①② ①②	2 2 2 2 2	○ 進化・生理心理学 ○ 障害心理学 ○ 神経科学 ○ 生態心理学 ○ 神経生理学 ○ 教育・学校心理学 ○ 心理健康学特別講義A ○ インターンシップ実習	①② ①② ①② ①② ①② ①② ①②③	2 2 2 2 2 2 2	○ 学習心理学 ○ 認知脳科学概論 ○ 青年心理学 ○ 産業・組織心理学 ○ 学校臨床心理学 ○ 運動学習論 ○ ダンス・セラピー ◎ 専門ゼミⅡ ○ 心理療法各論C(自然体験療法)	①② ①② ①② ①② ①② ①② ①②③ ①②	2 2 2 2 2 2 1 2	◎ 卒業研究A	①②③	3	◎ 卒業研究B	①②③	3			
	選択 62単位以上						◎ 心理健康基礎ゼミ	①②③	1	◎ 専門ゼミⅠ	①②③	1													

<卒業要件>
必修 24単位
選択 104単位
合計 128単位以上

学期修得単位数 計

17

21

21

21

21

21

3

3

1年次修得単位数 計

38

2年次修得単位数 計

42

3年次修得単位数 計

42

4年次修得単位数 計

6

本モデルの修得単位数 合計 128

■学外実習施設承諾書の写し

〔資料5〕

1. 医療法人 愛広会 新潟リハビリテーション病院
2. 医療法人 恵生会 南浜病院
3. 医療法人社団 敬成会 白根緑ヶ丘病院
4. 新潟市教育相談センター
5. 学校法人 大彦学園 開志学園高等学校
6. 学校法人 大彦学園 開志国際高等学校
7. 新潟県警察本部 警務部警務課 犯罪被害者支援室
8. 新潟市保健衛生部 新潟市こころの健康センター

〔資料6〕

心理健康学科 見学実習施設一覧

No	領域	実習施設名	所在地	授業科目	受付人数
1	医療	医療法人 愛広会 新潟リハビリテーション病院	〒950-3304 新潟市北区木崎761番地	心理実習Ⅰ	15
				心理実習Ⅱ	15
2	医療	医療法人 恵生会 南浜病院	〒950-3102 新潟市北区島見町4540番地	心理実習Ⅰ	10
				心理実習Ⅱ	0
3	医療	医療法人社団 敬成会 白根緑ヶ丘病院	〒950-1262 新潟市南区西白根41番地	心理実習Ⅰ	5
				心理実習Ⅱ	5
4	教育	教育委員会 新潟市教育相談センター	〒951-8104 中央区西大畑町458番地1	心理実習Ⅰ	20
				心理実習Ⅱ	20
5	教育	学校法人 大彦学園 開志学園高等学校	〒950-0925 新潟市中央区弁天橋通1丁目4-1	心理実習Ⅰ	0
				心理実習Ⅱ	5
6	教育	学校法人 大彦学園 開志国際高等学校	〒959-2637 新潟県胎内市長橋上439-1	心理実習Ⅰ	10
				心理実習Ⅱ	10
7	司法・ 犯罪	新潟県警察本部 警務部警務課 犯罪被害者支援室	〒950-0965 新潟市中央区新光町4番地1	心理実習Ⅰ	0
				心理実習Ⅱ	10
8	福祉	新潟市保健衛生部 新潟市こころの健康センター	〒951-8133 新潟市1中央区川岸町1丁目57番地1	心理実習Ⅰ	0
				心理実習Ⅱ	5
合計				心理実習Ⅰ	60
				心理実習Ⅱ	70

【学外実習の手引き】

＜実習の流れ＞

1)実習開始前

・保険の加入

実習中に起こる可能性のある事故，傷害，物損等に対しては，損害保険に加入することを義務付け，科目責任者は事前にこれを確認します。

・実習概要の作成と確認

実習中に起こる可能性のある事故，傷害，物損等に対しては，損害保険に加入することを義務付け，科目責任者は事前にこれを確認します。

・実習前オリエンテーションの開催

科目責任者は実習期間前にオリエンテーションを開催し，欠席時の連絡方法や緊急時の対処方法や対応について周知します。

・就学環境の確認

実習は，悪天候，公共交通機関の遅延，感染症の蔓延など実習開始に支障が無いかを確認します。抗体価検査や予防接種等の予備的措置の必要性についても掌握します。

2)実習期間中

・実習前ミーティングの開催

実習日毎に，実習前ミーティングを開催します。実習前ミーティングには，当日の担当教員，実習生および当日の臨床に関わる総ての者が参加し，参加者と担当教員の確認を行います。

・実習中の連絡確認

担当教員は常に連絡や通報の必要性について勘案しながら，実習教育に取り組みます。

・実習後ミーティングの開催

実習担当教員と教員間で開催し，当日の実習の修了を確認します。

・実習担当教員間でのミーティングの開催

実習担当教員は定期的にミーティングを開催し，実習の進捗状況や問題点などについて話し合い，緊急時を含めた連絡体制について改善に努めます。

3)実習期間終了後

・実習の連絡体制に関する改善案の作成

科目責任者は，実習期間に生じた問題点やヒヤリハット等をまとめて総括し，学科教員に告知するとともに，連絡体制を含めて次期の実習の改善を図るための処置を講じます。

＜実習生の心得＞

実習は，利用者およびそのご家族，実習先の実習指導者やその他職員のご協力によって成り立っていることを認識し，与えられた貴重な機会を有効に生かすように努力しなければならない。また，公認心理師としての適性を学ぶ場であることを理解し，自覚をもって臨まなければならない。

実習にあたっては，患者や利用者，関係者など，実習で出会うすべての人々に対し，挨拶・言葉遣い等に配慮し，礼儀正しく学生として節度ある態度で接する。具体的には，決められた

時間を守る，自己の生活を整え，健康状態に留意することが挙げられる。

また，実習先の患者や利用者並びに家族からの贈答品は丁寧にお断りすること。

4) 時間を守る

- ・時間厳守とする。
- ・常に 10 分前までに指定された場所に集合すること。
- ・欠席，遅刻，早退の場合は，心理健康学科事務室【〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇】に必ず連絡を入れる。

5) 秘密を守る

実習を通して知り得た患者や利用者，関係者など実習で出会うすべての人々に関する情報は個人情報であり，学生はそれら個人情報を保護する義務をもつ。

実習期間中，本学在学中，さらに卒業後においても，実習を通して知り得た患者や利用者，関係者などに関する個人情報を正当な理由なく第三者に漏らしてはならない。

実習記録（実習に関連した学生個々のメモ書きも含む）の取扱いと保管・管理については実習担当教員，ならびに実習指導者の指示のもと，十分に配慮する。

- ・実習中に知り得た患者や利用者，関係者などの情報は口外しない
- ・特に実習場所以外での実習に関する話題には注意する
- ・実習の行き帰りの公共交通機関などで知りえたことを話さない。

特に SNS やフェイスブック，ツイッター，Instagram 等に写真や文章を絶対に投稿しないこと

- ・実習記録の患者や利用者，関係者などに関する情報は個人が特定できないように工夫して（例として患者名をAさん，○×△など記号化するなど）記すこと。地名，病院名に対しても同様とする
- ・患者や利用者に関する記録物やメモは，実習終了後，シュレッダーにかけて処理すること
- ・実習施設にある記録物は，許可なく閲覧してはならない
- ・実習施設内の記録物の持ち出しは禁止とする

表1「個人情報の保護について」，表2「問題となる事例」，表3「SNSで起こりうるトラブルについて」を熟読しておくこと。

表1 個人情報の保護について

(1)個人情報の定義

個人情報とは、個人に関する情報であつて、氏名、住所、電話番号、メールアドレス、自動車運転免許証番号、旅券番号、DNA塩基配列や生体認証で用いられるデータなど、単独又は他の情報との照合により特定の個人を識別できる情報を含むものをいう。

(2)遵守事項

- 1) 個人情報を正規の利用目的以外のために不当に入手してはならない。アクセス権限を有する場合であっても、業務上の目的以外の目的で個人情報にアクセスしてはならない。
- 2) 患者の氏名・住所・電話番号を、不用意に記載・入力・印刷・複製しない。診療に必要な文書を印刷する場合でも、氏名はイニシャルにするなど可能な限り匿名化し、やむを得ず持ち運ぶ際は、バインダーやファイルに挟むなど紛失防止に細心の注意を払う。
- 3) 実習等で知り得た個人情報を漏らしたり、インターネット上に公開したりしない。
- 4) 患者の個人情報は絶対に院外に持ち出さない。
- 5) 私物パソコン、USBメモリやDVD等の持ち運びが可能なメディア、オンラインストレージ (Google Drive、Dropbox 等) に患者の個人情報を保存しない。診療情報をカメラやスマートフォンなどで撮影しない。
- 6) 個人情報を取り扱うコンピューターは「個人情報管理区域」で管理し、必ず起動時パスワードを設定する。パスワードは8桁以上で設定し、定期的に変更する。
- 7) 診療情報端末のIDとパスワードは、絶対に他人に教えたり使わせたりしない。
- 8) 患者の個人情報を含むWord、Excel、PowerPoint等のファイルには、個人情報を匿名化した場合も含め、ファイル読み取りパスワードを設定する。パスワードは8桁以上で設定する。
- 9) ウイルス対策ソフトをパソコンに入れ、常に最新の状態にしておく。
- 10) ファイル共有ソフト (Winny 等) は自宅・職場を問わず使用しない。
- 11) 院内ファイル共有サービスを使用する。
患者の個人情報は電子メール本文に記載しない。個人情報を含む情報を送信する場合は、院内ファイル共有サービスを使用する。
- 12) FAXの誤送信に注意する (外部発信は非発信)。
- 13) 患者の個人情報が入った紙・電子媒体を廃棄する場合は、再現・再利用できないように必ず破砕・溶解処理をする。
- 14) 個人情報の紛失、行方不明、流出、盗難の可能性が発生したら、絶対に事態を隠蔽しない。

表2 問題となる事例

- 患者要約等、個人を同定できるものを入れたかばんを電車の網棚に忘れた。
- 患者情報の入ったUSBメモリを落とした。
- カンファで使用した患者一覧を置き忘れた。
- エレベーター内で学生同士が患者情報を話していたところ、ほかの患者に聞かれた。
- 患者情報 (画像等を含む) をBlog、Twitter、Facebook、インターネットの掲示板等で紹介した。等

表3 SNSで起こりうるトラブルについて

<p>SNSは上手に利用すれば便利なものですが、使い方を間違えると事件になるほど大きな問題に発展することもあります。特に実習での情報は注意が必要です。</p>	
1. 個人情報流出	<p>個人情報の流出はどのSNSでも起こり得る問題で、無意識のうちに流出してしまう可能性もあります。例えば、投稿した写真に偶然個人情報が書いてある患者カルテが写り込んでしまう、患者自身が写ってしまうようなアングルで写真を撮影してしまうなどはよくあるケースです。実習での患者情報や治療などは決して投稿などしないよう気を付けましょう。</p>
2. 不用意な投稿で炎上	<p>炎上というのは、SNSだと拡散力の強いTwitter上で起こりやすい現象です。例えば、差別や悪口など、不適切な投稿を無意識に行ってしまった場合、悪意のある人たちに拡散されてしまう可能性があります。特定の個人を非難する内容が拡散されて、多くの人に広まった場合は事件になる可能性もあるため、自分の投稿には責任を持って、できるならネガティブな内容よりポジティブな内容の投稿を心がけましょう。</p>
3. 誤った情報(デマ)の拡散	<p>SNS上には正しい情報と誤った情報が入り乱れています。自分で情報発信を行う場合も拡散する場合も最大限の注意を払って、正しい情報を選んでから行動するようにしましょう。</p>

6) 報告・連絡・相談を心がける

- ・実習中に得た情報については、速やかに実習指導者または施設スタッフに確実に報告する。
- ・実習中に事故が発生した場合、速やかに実習指導者、施設スタッフ、実習担当教員に報告する。
- ・実習場所の物品を破損または紛失などした場合は、速やかに実習指導者、施設スタッフ、実習担当教員に報告し、指示を受ける。
- ・体調不良等の自己の事情並びにやむを得ない事情により、実習場所を離れる時は、速やかに実習指導者、施設スタッフ、実習担当教員に報告する。
- ・実習生ではあるが、公認心理師の法律に則った行動をとる。参考までに公認心理師の義務において実習に係る部分を以下に記す。

表4 公認心理師の義務

	義務内容	行政処分	罰則
第40条	<p>信用失墜行為の禁止</p> <p>「公認心理師は、公認心理師の信用を傷つけるような行為をしてはならない。」</p>	<p>「文部科学大臣及び厚生労働大臣は、…登録を取り消し、又は期間を定めて公認心理師の名称及びその名称中における心理師という文字の使用の停止を命じることができる。」</p>	×
第41条	<p>秘密保持義務</p> <p>「公認心理師は正当な理由がなく、その業務に関して知り得た人の秘密を漏らしてはならない。公認心理師でなくなった後においても、同様とする。」</p>	<p>「文部科学大臣及び厚生労働大臣は、…登録を取り消し、又は期間を定めて公認心理師の名称及びその名称中における心理師という文字の使用の停止を命じることができる。」</p>	第46条「一年以下の懲役又は三十万円以下の罰金」
第42条	関係者との連携義務		

	「公認心理師は、その業務を行うに当たっては、その担当する者に対し、保健医療、福祉、教育等が密接な連携の下で総合的かつ適切に提供されるよう、これらを提供する者その他の関係者等との連携を保たねばならない。」	×	×
第42条	主治医の指示を受ける義務 「公認心理師は、その業務を行うに当たって心理に関する支援を要する者に当該支援に係る主治の意志があるときは、その指示を受けなければならない。」		×
第43条	資質向上の責務 「公認心理師は国民の心の健康を取り巻く環境の変化による業務の内容の変化に対応するため、(中略)知識及び技術の向上に努めなければならない。」	×	×
第44条	名称の使用制限 「公認心理師でない者は、公認心理師という名称を使用してはならない。」前項に規定するもののほか、公認心理師でない者は、その名称中に心理師という文字を用いてはならない。」	×	第49条 「三十万円以下の罰金」

7) 服装・身だしなみについて

実習中は実習生として適切な格好を心がけること。服装は華美なものを避け、周囲の人々から見て、受け入れられやすい容姿となることに留意し、相手に清潔感・爽快感を与えるように心がけること。

表5 身だしなみチェックリスト

項目	判断基準	
頭髪	・基本的には地毛の色で、カラーリングは黒または暗めの茶（明るい茶は禁止）にする。	
	・かりあげ部分は見えないようにする。髪を過剰に立たせないようにする。	
	・前髪は目にかからない長さにする。肩より長い髪は結ぶ（サイドの髪束にも注意）。	
	・寝癖は直してくる。	
	・整髪料をべたつくほど付けない。	
顔	・髭は剃り残しのないようにする。	
	・化粧はナチュラルにする（色、ラメ、厚塗り注意）。	
	・カラーコンタクト、つけまつげは禁止する。	
	・眼鏡の汚れは拭き取っておく。また、フレームのデザインも派手でないものにする。	
服装	・派手な色、柄、素材（透けるもの、デニム地）は禁止する。	
	・服の汚れや穴、しわがないようにする。	
	・肩や膝下部分、下着が露出しない服を着用する。腰パンも禁止する。	
	・ベルトや靴下、インナーなど、一見隠れた部分にも気を配る。	
足元	・靴下やストッキング、タイツを履く（裸足、ニーハイソックスは禁止）。	
	・服装同様、派手な色や柄、素材のものを着用しない。	
	・汚れや穴がないようにする。	
爪	・長すぎず、自然な形に整える（尖った形は禁止）。	
	・マニキュアやつけ爪は禁止する（爪が割れやすい場合は要相談）。	
	・汚れがないように清潔にする。	
その他	・アクセサリは禁止する（指輪、ネックレス、ピアス、バンダナなど）。	
	・派手な腕時計を着用しない。	
	・香水、コロンは禁止する。服の柔軟剤や整髪料の香りはきつくないようにする。	
	・不快な臭いは事前に消しておく（口臭、体臭、タバコ、ニンニク、アルコールなど）。	
	対策：喫煙後 1 時間以内に来室しない・深呼吸する、当日にニンニクを摂取しない等。	
	・実習中は実習先の規則やルールに従うこと。	

8) 言動や行動全般について

- ・患者や利用者が悩みを持っている人であることを忘れない。
- ・実習場所では禁煙とする。
- ・休憩、更衣室の使用に関しては実習施設の注意事項に従う。
- ・患者や利用者が安心感・信頼感が持てるような言動がとれるように心がける。

- ・正しい敬語を使い、相手に尊敬を持った態度で常に接する。
- ・施設内は走らず、落ち着いた態度で行動する。
- ・実習開始時及び終了時は必ず挨拶をする。
- ・休憩時間をとる場合は、不在になることを実習指導者並びに施設スタッフに報告する。
- ・学生らしい言葉遣いと礼儀正しい態度を心がける。
- ・自己判断並びに学生同士の判断のみで行動しない。
- ・実習中は私語を慎み、足音、話し声、笑い声などにも注意を払う。
- ・施設内では携帯電話、スマートフォンの電源を必ず切り、実習中は持ち歩かない。

9) 更衣室ならびに休憩室について

- ・実習場所の掃除、整理、片付けなどは積極的に行う。
- ・自分の出したゴミは、各自で持ち帰る。
- ・昼食は指定の場所でとること。

10) 保険加入

実習期間中に学生自身に不慮の事故などが発生した場合、学生の不注意等によって利用者に被害を与えた場合、実習施設に器物破損等の損害を与えた等の緊急事態に備え、保険加入をしている。

〈実習中起こり得る事故発生時の対応〉

- ①実習施設利用中に事故や備品等の破損などが生じた場合、学生は速やかに実習担当教員及び実習指導者に報告し、指示を受ける。
 - ②患者や利用者あるいは実習関係者の私物を破損した場合、ただちに相手に謝罪し、適切な応急的対応を取ったうえで、実習担当教員や実習指導者に報告する。
 - ③実習施設への通学中あるいは施設外での実習中に事故等が発生した場合、適切な応急対応を取った上で、速やかに実習担当教員及び実習指導者に報告し、指示を受ける。
 - ④上記①～③のような事故・賠償については原則、補償の対象となる
- 事故が生じた場合は、実習担当教員に速やかに報告するとともに、大学事務局に報告し、保険請求の手続きを行う。

11) 実習におけるハラスメント

本学において学生生活を送るとともに修学し、教育し、研究し、就労する全ての人には、各人が対等の人格として尊重され、ハラスメントのない環境を享受する権利があります（本学ハラスメントの防止及び対策等に関するガイドラインより）。実習期間中においても、学内における活動と同様、この権利が保障されなければなりません。実習施設において指導する際も、学生の学習環境を保全するべく配慮しなければなりません。実習指導を担当する教職員は、本学ホームページ上に開示してあります「ハラスメント防止の取り組み」を確認し、実習にあたるようにしてください。

他学科におけるこれまでの実習においては法的措置を必要とする、あるいは本学人権委員会が調停を行う必要があるという事例は発生しておりません。しかし、教員に寄せられる学生からの相談の中には、年間数件ハラスメントととらえることができるものが含まれているようです。

患者様（クライアント）に接する実習では、相手（患者様）の立場を考えた医療人としての意識をもった思いやりのある行動・対応を指導者および実習学生は心がけましょう。

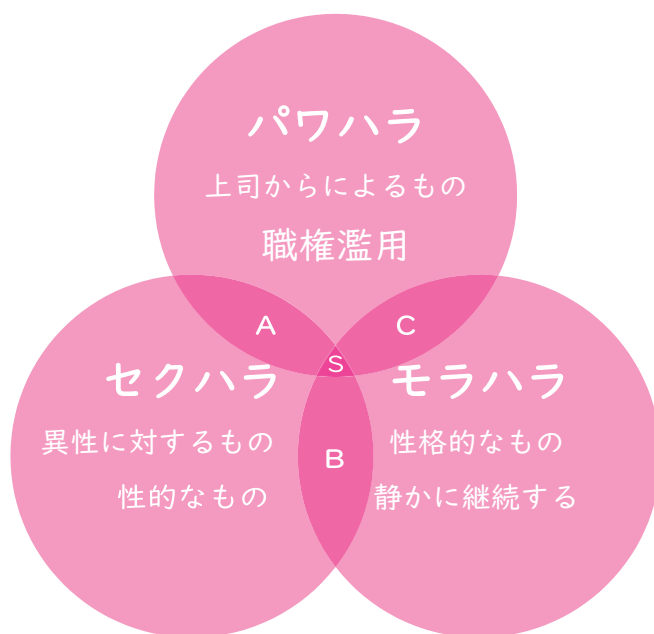


図1 ハラスメントの概念図

表6 ハラスメント事例と対策

種別	事例	対策
A	異性の指導者から2人きりで指導を受けた際「がんばれ」と肩をたたかれた。最初はうれしかったが、指導者からの身体接触が頻繁となり、2人きりになることに不安を感じていたが、断れなかった。	異性・同性にかかわらず、指導者と学生が密室で2人きりになる状況は避ける。
C	副指導者の指示に従って行動したところ指導者に全職員の前で強く叱責された。親がダメだから...という発言に強い憤りを覚えたが反論できず、行動を指示した副指導者からのサポートも受けられず孤立感が高まった。	学生が反論できない立場にあることを理解すること。同年代の相談役、年の離れた相談窓口を設ける。
C	実習開始当初から「とろい」と言われ続けた。学生本人もその傾向があることを自覚していたが、評価総評にも「とろい」と記載されたことで、「公認心理師にむいていない」と考えるようになった。	相談窓口を設ける。指導が密室で行われないよう配慮する。

(対策については理学療法スーパーバイズマニュアルより抜粋)

12)緊急時の連絡

実習中に緊急を要する問題が発生した場合、どの教員にご連絡いただいても迅速に対応できるよう体制を組んでいます。

実習中の人身事故・ヒヤリハットなど

実習期間中に事故が発生してしまった場合、事故発生から報告書の提出まで以下の通りの手順を定めています。

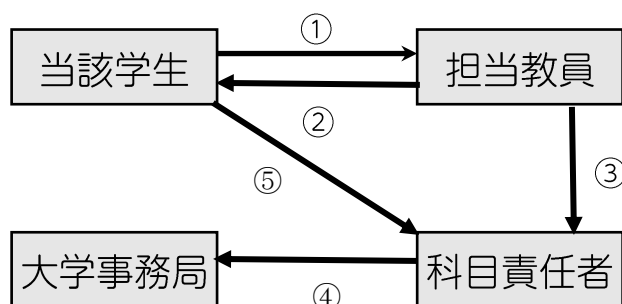


図 2：緊急時連絡網

- ① 事故・ヒヤリハットの報告
- ② 事故・ヒヤリハットへの対処指示
- ③ 事故・ヒヤリハットへの発生と対処、結果の報告および改善策の提示
- ④ 当該事故・ヒヤリハットの総括と今後の対処法の提示
- ⑤ 事故・ヒヤリハット報告書の提出（教員の指導を受けながら）

学生自身に生じた自己、傷害、疾病など

傷害や疾病により実習に参加できない場合には、事前に心理健康学科教員に報告します。

- ・通学中の事故により実習に参加できない場合には、ただちに心理健康学科教員へ連絡し、担当教員および科目責任者に周知させます。
- ・実習中に事故、体調の変化により実習が継続できない場合には、担当教員に申し出て、教員の指示（保護）に基づき、対処します。

13)連絡窓口

平日日中	025-257-●●●●●	心理健康学科合同研究室
夜間祝日	080-●●●●●-●●●●●	(学科長携帯)
e-mail	●●●●●@nuhw.ac.jp	心理健康学科合同研究室

合同研究室には学科事務及び複数の教員が在室しております。平日勤務時間帯であればこちらにご連絡いただくのが最も確実です。科目担当教員（実習担当教員）や連絡担当教員（主として当該学生のゼミ担当教員）の研究室に直接ご連絡いただいてもけっこうですが、授業やゼミ等の関係で不在あるいは電話に出られないこともあります。その折にはこちらにご連絡ください。折り返し各担当教員よりご連絡申し上げます。

各実習が開始されますと、科目担当教員がそれぞれが1台ずつ実習対応専用携帯電話を携帯しております。夜間や週末、祝日に関しましてはそちらにて対応させていただきます。

学生への個別対応

学生への個別対応は、主として各学生のゼミ指導教員が担当いたします。配属学生のゼミ指導教員名及び連絡先は、実習開始時にお渡しする「学生プロフィール」にてお知らせいたします。

新潟医療福祉大学代表電話番号：025-257-4455

こちらにお電話をいただくと、大学事務局にてご希望の連絡先におつなぎいたします。

14)その他

- ・実習開始時，実習出席表に押印またはサインをする。
- ・実習施設への通学は，公共交通機関の利用とし，自動車，バイクは使用しない。
- ・原則，貴重品は持参しない

〔資料8〕

【個人情報保護に関する誓約書】

〇〇〇〇

〇〇 〇〇 殿

この度、貴施設での実習・見学にあたり、以下の事項を遵守することを誓約いたします。

- 1.私は、貴施設での実習・見学にあたり、個人情報保護に関する諸規定を遵守し、期間中は貴職員の指示に従います。
- 2.私は、実習・見学中に知り得た患者様および貴施設関係者の個人情報、また取引業者の情報資産などを、実習・見学中はもちろん、実習・見学終了後も第三者に故意または過失によって漏洩したり、無断で使用したりしないこと、およびその結果として貴施設に損害をかけないことを誓約いたします。
- 3.私の故意または過失及び当誓約書に違反し、貴施設に損害を与えた場合は、その責任を負います。

令和 年 月 日

住 所 _____

氏 名 _____ 印

〔資料 9〕

【実習終了報告書】

科目	学年	学籍番号	氏名
<input type="checkbox"/> 心理実習 I			
<input type="checkbox"/> 心理実習 II			

実習領域・実習先（当てはまる領域の（ ）に○をつけること）

領域	<input type="checkbox"/> 保健医療 <input type="checkbox"/> 福祉 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 司法・犯罪
施設名	

実習日時・時間

実習日時	年	月	日
①実習時間（施設での実習時間）	計	時間	分
②事前学習時間（実習前の実習に関する学習時間）	計	時間	分
③事後学習時間（実習後の実習に関する学習時間）	計	時間	分
総時間（①+②+③）	総計	時間	分

事前学習の内容（実習先の業務内容の概要、心理職の役割、関連する法律など）

--

実習内容（実習のタイムスケジュール、実習先で学んだこと、体験したことなど）

--

事後学習の内容（事前学習との一致や相違、実習後に調べたこと、気づいたことなど）

--

評価（自分自身の評価）

	観点	自己評価
1	実際にどのような支援が行われているのかを理解できた	
2	他職種とのチームアプローチのあり方について理解できた	
3	地域との連携のあり方について理解できた	
4	公認心理師としての職業倫理や法的義務について理解できた	
5	上記内容を他者に説明することができる	

評価基準

A：優れている

B：良好である

C：やや不十分である

D：不十分である

実習担当教員からのコメント

--

実習担当教員： _____

〔資料 10〕新潟医療福祉大学社会福祉学部心理健康学科
インターンシップ実習受入先一覧

NO.	企業名	所在地	受入可能 人数
1	(株)鳥屋野不動産	新潟県新潟市中央区鳥屋野 2 丁目 13-22 鳥屋野不動産ビル	3
2	(株)IT スクエア	新潟県新潟市中央区万代 3 丁目 1-1 メディアシップ 13F	3
3	(株)エム・アイ・ディジャパン	新潟県上越市上島 469-1	3
4	(株)HEAVID	新潟県新潟市東区下場 52 番地 11	2
5	(株)近藤組	新潟県新潟市中央区稲荷町 2525-1	3
6	(株)アヅマテクノクス	新潟県新潟市中央区南笹口 1-9-10	2
7	ミサワホーム北越(株)	新潟県新潟市中央区関新 2 丁目 1- 53	2
8	(株)清新ハウス	新潟県新潟市秋葉区福島 167-2	4
9	アレーゼ新潟(株)	新潟県新潟市中央区女池神明 2 丁 目 8-10	4
10	オンド(株)	新潟県新潟市中央区天神 2-1-5	3
11	(合)レンズ	新潟県新潟市中央区西堀道 5-857-2 野村ビル 1 F	3
12	大成ネット(株)	新潟県新潟市中央区東大通 2 丁目 1-20	2
13	(株)AC15	新潟県新潟市中央区堀之内 50-1	4
14	(株)さかのや	新潟県新潟市西区中権寺 2734-1	2
15	(株)コスモツアーリスト	新潟県新潟市西区大学南 2-8-24	5
16	(株)wisdom	新潟県新潟市西区大学南 2-8-22	5
17	(株)ProntoNet	新潟県新潟市西区小新南 2-13-2	3
18	(株)ヘイゼル・トンプソン	新潟県新潟市東区逢谷内 6 丁目 8-3	2
19	ブロス新潟	新潟県新潟市中央区女池上山 1-15- 23	2
20	(株)たしろ	新潟県新潟市中央区鳥屋野 416-6	3

〔資料11〕 心理健康学科カリキュラムとの資格対比表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態	公認心理師法施行規則対応科目	公認心理師法施行規則に定められている科目	認定心理士対応科目※1	産業カウンセラー対応科目	社会福祉主事任用資格	専任等区分	備考
			必修	選択	自由								
専門基礎科目群	心理学概論Ⅰ	1前	2			○	●	心理学概論	a領域	●	●	専任	
	心理学概論Ⅱ	1後	2			○	●	心理学概論	a領域	●	●	専任	
	臨床心理学概論	2前	2			○	●	臨床心理学概論	a領域	●		専任	
	運動心理学概論	1前	2			○						専任	
	心理学研究法Ⅰ	1後	2			○	●	心理学研究法	b領域			専任	
	心理学研究法Ⅱ	2前	2			○	●	心理学研究法	b領域			専任	
	心理学統計法Ⅰ	1後	2			○	●	心理学統計法	b領域			専任	
	心理学統計法Ⅱ	2前	2			○	●	心理学統計法	b領域			専任	
	心理学基礎実験	2前	2			○	●		c領域			専任	
	心理学実験	3前	2			○	●	心理学実験	c領域			専任	
	比較認知科学	1前	2			○						専任	
	記憶の科学	3後	2									兼任	
	ストレスと脳	1前	2			○						専任	
	脳とこころ	1後	2									専任	
	心理プログラミング	3前	2									専任	
	精神医学	2後	2									兼任	
	メンタルトレーニング	2前	2			○						専任	
	スポーツ心理臨床	2後	2			○						専任	
	コーチングの心理	3後	2									専任	
	スポーツ心理学	2前	2									兼任	
	競技スポーツの心理学	3前	2									兼任	
	スポーツカウンセリング	2後	2									兼任	
	アダプテッドスポーツ論	2後	2									兼任	
	社会福祉概論	1前	2			○					●	兼任	
	精神保健学	2後	2			○					●	兼任	
	介護概論	3前	2			○						兼任	
	高齢者福祉論Ⅰ	2前	2			○						兼任	
	高齢者福祉論Ⅱ	2後	2			○						兼任	
	児童家庭福祉論Ⅰ	3前	2			○						兼任	
	児童家庭福祉論Ⅱ	3後	2			○						兼任	
障害者福祉論Ⅰ	3前	2			○						兼任		
障害者福祉論Ⅱ	3後	2			○						兼任		
感覚・知覚心理学	2後	2			○	●	知覚・認知心理学	d領域			専任		
認知・言語心理学	2後	2			○	●	知覚・認知心理学 学習・言語心理学	d領域	●		専任		
学習心理学	3後	2			○	●	学習・言語心理学	d領域	●		専任		
感情・人格心理学	2前	2			○	●	感情・人格心理学	d領域	●		専任		
神経心理学	2後	2			○	●	神経・生理心理学	e領域	●		専任		
進化・生理心理学	3前	2			○	●	神経・生理心理学	e領域	●		専任		
発達心理学	2前	2			○	●	発達心理学	f領域	●		専任		
教育・学校心理学	3前	2			○	●	教育・学校心理学	f領域	●		専任		
青年心理学	3後	2			○	●		f領域			兼任		
健康・医療心理学	2前	2			○	●	健康・医療心理学	g領域	●		専任		
福祉・家族心理学	2後	2			○	●	社会・集団・家族心理学 福祉心理学	g領域			専任		
障害心理学	3前	2			○	●	障害者・障害児心理学	g領域	●		専任		
社会心理学	2前	2			○	●	社会・集団・家族心理学	h領域	●		専任		
集団心理学	2前	2			○	●		h領域			専任		
産業・組織心理学	3後	2			○	●	産業・組織心理学	h領域	●		兼任		
心理的アセスメント	2前	2			○	●	心理的アセスメント	g領域	●		専任		
心理学的支援法	2後	2			○	●	心理学的支援法		●		専任		
司法・犯罪心理学	3前	2			○	●	司法・犯罪心理学		●		兼任		
人体の構造と機能及び疾病	3前	2			○	●	人体の構造と機能及び疾病		●		兼任		
精神疾患とその治療	2後	2			○	●	精神疾患とその治療		●		兼任		
関係行政論	3後	2			○	●	関係行政論		●		兼任		
公認心理師の職責	3後	2			○	●	公認心理師の職責		●		専任		
認知脳科学概論	3後	2			○						兼任		
神経生理学	3前	2			○			e領域			兼任		
生熊心理学	3前	2			○						兼任		
心理療法各論A(認知行動療法)	2後	2			○						専任		
心理療法各論B(力動的心理療法)	3前	2			○						専任		
心理療法各論C(自然体験療法)	3後	2			○						兼任		
司法精神医療	3前	2			○						専任		
ブリーフ・セラピー	3後	2			○						専任		
プロセスワーク	2前	2			○						兼任		
教育相談論	3前	2			○						専任		
学校臨床心理学	3後	2			○						兼任		
精神分析学	2後	2			○						専任		
発達と障害児の心理	2前	2			○						専任		
健康・医療におけるコミュニケーション論	2後	2			○						兼任		
運動学習論	3後	2			○						専任		
健康運動心理学	2前	2			○						専任		
ダンス・セラピー	3後	2			○						兼任		
ボディワーク	2後	1			○						兼任		
キャンプ・カウンセリング	2前	1			○						兼任		
心理健康科学特別講義A	2・3・4前	1			○						兼任		
心理健康科学特別講義B	2・3・4前	1			○						兼任		
心理健康科学特別講義C	2・3・4後	1			○						兼任		
心理演習	3後	1			○	●	心理演習				専任		
心理実習Ⅰ	4前	1			○	●	心理実習	c領域			専任	実習時間80時間以上	
心理実習Ⅱ	4後	1			○	●	心理実習	c領域			専任	実習時間80時間以上	
インターンシップ実習	3前	1			○						専任		
心理健康基礎ゼミ	2後	1			○						専任		
専門ゼミⅠ	3前	1			○						専任		
専門ゼミⅡ	3後	1			○						専任		
卒業研究A	4前	3			○			i領域			専任		
卒業研究B	4後	3			○			i領域			専任		

※1 認定心理士取得要件

a領域：4単位以上	合計12単位以上
b, c領域 8単位以上 (最低4単位は心理学実験・実習の単位)	
d領域	5領域から3領域以上 それぞれが4単位以上で16単位以上
e領域	
f領域	
g領域	
h領域	
i領域 最大4単位	4単位
すべて合わせて36単位以上	

[資料 12]

学校法人新潟総合学園就業規則(抄)

(定 年)

第 20 条 教育職員のうち無期雇用契約および途中で有期雇用契約から無期雇用契約に転換した教授、准教授、講師の定年は満 65 歳とし、定年年令に達した年の年度末をもって退職とする。但し、職員、学園双方協議のうえ再雇用して 3 年以内勤務させることができるものとし、当該任期が経過した後の再任は個別に決定する。

2 教育職員のうち、無期雇用契約および途中で有期雇用契約から無期雇用契約に転換した助教・助手の定年は満 60 歳とし、定年年令に達した年の年度末をもって退職とする。但し、定年退職後の再雇用を希望する者で、就業規則第 21 条（解雇）または第 22 条（懲戒解雇）に該当しない者であって、高年齢者雇用安定法一部改正法附則第 3 項に基づきな効力を有することとされる改正前の高年齢者雇用安定法第 9 条第 2 項に基づく労使協定の定めるところにより、次の (1) ～ (3) の全て、もしくは (4) に該当する者においては 65 歳に達した年の年度末まで、基準のいずれかを満たさない者については基準の適用年齢の年度末まで、学園の提示した労働条件に合意した者と 1 年単位の再雇用契約を締結する。

(1) 過去 3 年間の定期健康診断の結果、及び日常の本人の心身の状態から従事する業務に支障がないと判断されること

(2) 次の健康状態であること

- ・過去 3 年間、2 週間以上連続して疾病で休んでいないこと
- ・慢性的な疾患により、通院治療が必要な病気に罹患していないこと。但し、常用する薬の受け取りが主たる目的である通院を除く

(3) 過去 10 年間に懲戒処分を受けていないこと

(4) その他前各号を満たさない者でも、学園が特に必要と認めた者

3 前項の場合において、次の表の左欄に掲げる期間における当該基準の適用については、同表の左欄に掲げる区分に応じ、それぞれ右欄に掲げる年齢以上の者を対象に行うこととする。

平成 25 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで	61 歳
平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで	62 歳
平成 31 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日まで	63 歳
平成 34 年 4 月 1 日から平成 37 年 3 月 31 日まで	64 歳

4 第 2 項の規定にかかわらず、学園が特に必要と認めた場合、雇用終了年令を超えて勤務することがある。

5 定年を超える期間に対しては退職金を支給しない。

附 則

1 (略)

2 第 20 条については、次のとおり経過措置を定める。

施行の際既に定年年齢を超えている職員並びに平成 17 年 3 月末日までに定年年齢に達する職員については、採用から 4 年を経過した日をもって定年とする。

3 第 20 条に係わらず学部・学科の新増設、大学院の新設など特別の事情があるときは、理事会において定年の延長を個別に措置することができる。

[資料13]

専任教員別時間割案(令和9年度)

山本 裕二:前期

	月	火	水	木	金
1限			健康運動心理学		
2限	心理プログラミング		メンタルトレーニング		
3限		運動心理学概論	基礎ゼミ	専門ゼミ I	
4限				卒業研究A	
5限					
6限					

山本 裕二:後期

	月	火	水	木	金
1限					
2限		心理学統計法 I	運動学習論		
3限			連携基礎ゼミ	専門ゼミ II	
4限		心理健康基礎ゼミ		卒業研究B	
5限				コーチングの心理	
6限					

坂田 省吾:前期

	月	火	水	木	金
1限		心理学基礎実験	心理学実験		
2限		心理学基礎実験	心理学実験	比較認知科学	
3限	心理学概論 I		基礎ゼミ	専門ゼミ I	
4限				卒業研究A	
5限					
6限					

坂田 省吾:後期

	月	火	水	木	金
1限		心理学の世界	感覚・知覚心理学		
2限			認知・言語心理学		
3限	心理学概論 II		連携基礎ゼミ	専門ゼミ II	
4限		心理健康基礎ゼミ		卒業研究B	
5限					
6限					

廣瀬 清人:前期

	月	火	水	木	金
1限					
2限				社会心理学	
3限	発達心理学		基礎ゼミ	専門ゼミ I	
4限		教育相談論		卒業研究A	
5限					
6限					

廣瀬 清人:後期

	月	火	水	木	金
1限					
2限	心理学的支援法				
3限		アカデミック・ライティング	連携基礎ゼミ	専門ゼミ II	
4限		心理健康基礎ゼミ		卒業研究B	
5限					
6限					

山崎 由美子:前期

	月	火	水	木	金
1限		心理学基礎 実験	心理学実験		
2限	比較認知科 学の世界	心理学基礎 実験	心理学実験	進化・生理 心理学	
3限	心理学概論 I		基礎ゼミ	専門ゼミ I	
4限				卒業研究A	
5限					
6限					

山崎 由美子:後期

	月	火	水	木	金
1限					
2限				心理学研究 法 I	
3限	心理学概論 II		連携基礎ゼ ミ	専門ゼミII	
4限		心理健康基 礎ゼミ		卒業研究B	
5限					
6限					

野村 照幸:前期

	月	火	水	木	金
1限					
2限		司法精神医 療	心理実習 I		
3限			基礎ゼミ	専門ゼミ I	
4限				卒業研究A	
5限	健康・医療 心理学				
6限					

野村 照幸:後期

	月	火	水	木	金
1限					
2限		心理療法各 論A (認知行動 療法)	心理実習 II		
3限			連携基礎ゼ ミ	専門ゼミII	
4限	公認心理師 の職責	心理健康基 礎ゼミ		卒業研究B	
5限					
6限					

松本 京介:前期

	月	火	水	木	金
1限					
2限			心理実習 I		
3限	心理療法各論B (力動的心理療法)		基礎ゼミ	専門ゼミ I	
4限		臨床心理学概論		卒業研究A	
5限					
6限					

松本 京介:後期

	月	火	水	木	金
1限					
2限		心理演習	心理実習 II		
3限			連携基礎ゼミ	専門ゼミ II	
4限	精神分析学	心理健康基礎ゼミ		卒業研究B	
5限					
6限					

橋本 照男:前期

	月	火	水	木	金
1限		心理学基礎実験	心理学実験		
2限		心理学基礎実験	心理学実験		心理学統計法 II
3限			基礎ゼミ	専門ゼミ I	
4限				卒業研究A	心理学研究法 II
5限					感情・人格心理学
6限					

橋本 照男:後期

	月	火	水	木	金
1限		神経心理学	脳とこころ		
2限					
3限		学習心理学	連携基礎ゼミ	専門ゼミ II	
4限		心理健康基礎ゼミ		卒業研究B	
5限					
6限					

小林 なぎさ:前期

	月	火	水	木	金
1限					
2限			心理実習 I		
3限			基礎ゼミ	専門ゼミ I	
4限				卒業研究A	
5限	教育・学校心理学	心理的アセスメント			
6限					

小林 なぎさ:後期

	月	火	水	木	金
1限					
2限		心理演習	心理実習 II		
3限			連携基礎ゼミ	専門ゼミ II	
4限		心理健康基礎ゼミ		卒業研究B	
5限		ブリーフ・セラピー			
6限					

溝江 唯:前期

	月	火	水	木	金
1限					
2限					
3限			基礎ゼミ		
4限	発達と障害児の心理				
5限		障害心理学			
6限					

溝江 唯:後期

	月	火	水	木	金
1限					
2限					
3限			連携基礎ゼミ		
4限		心理健康基礎ゼミ			
5限	日本語表現法 I・II				
6限					

領家 梨恵:前期

	月	火	水	木	金
1限		心理学基礎 実験	心理学実験		
2限		心理学基礎 実験	心理学実験		心理学統計 法Ⅱ
3限			基礎ゼミ		
4限					心理学研究 法Ⅱ
5限		ストレスと脳			
6限					

領家 梨恵:後期

	月	火	水	木	金
1限			感覚・知覚 心理学		
2限					
3限			連携基礎ゼ ミ		
4限		心理健康基 礎ゼミ			
5限					
6限					

千葉 陽子:前期

	月	火	水	木	金
1限			健康運動心 理学		
2限					
3限			基礎ゼミ		
4限					
5限					
6限					

千葉 陽子:後期

	月	火	水	木	金
1限					
2限					
3限			連携基礎ゼ ミ		
4限		心理健康基 礎ゼミ			
5限		スポーツ心 理臨床		コーチング の心理	
6限					

木村 能成:前期

	月	火	水	木	金
1限		インター シップ実習			
2限					
3限			基礎ゼミ		
4限					
5限				集団心理学	
6限					

木村 能成:後期

	月	火	水	木	金
1限					
2限					
3限	福祉・家族 心理学		連携基礎ゼ ミ		
4限		心理健康基 礎ゼミ			
5限					
6限					

〔資料14〕 完成年度の心理健康学科時間割案（令和9年度 前期）

＜凡例＞ ・青文字：全学共通科目の必修

・黒文字：全学共通科目の選択科目

・＜赤文字＞：専門基礎／専門専攻科目群の必修科目

・赤文字：専門基礎／専門専攻科目群の選択科目

・科目名の(a)(b)：講義1単位の科目(8回講義)。(a)が学期の前半開講、(b)が後半開講とする。

…全学共通科目

【月曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限				アカデミック英語 I 韓国語 II 中国語 II スペイン語 II	五十嵐 黄仁祚 斯日古楞 Patoricia Calderon	D301 D302 D303 D305	アカデミック英語 I	五十嵐	D301	アカデミック英語 I	五十嵐	D301
2限	(a)一次救命処置法 (b)一次救命処置法	大松	Q203	情報処理Ⅲ	寺島	IA401	心理プログラミング	山本	U棟中講義室			
	(a)比較認知科学の世界 (b)比較認知科学の世界	山崎	U棟大講義室									
3限	＜心理学概論 I＞	坂田、山崎	U棟大講義室	発達心理学	廣瀬	U棟中講義室	心理療法各論B (力動的心理療法)	松本	IA401			
4限				発達と障害児の心理	溝江	U棟中講義室	障害者福祉論 I	佐藤(洋)	Q203			
5限				健康・医療心理学	野村	U棟中講義室	教育・学校心理学	小林、浅井	U棟大講義室			
備考												

【火曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限				＜心理学基礎実験＞	坂田・山崎・ 橋本・領家	生理学実習室	インターンシップ実習	木村	U棟大講義室 各実習施設			
2限	社会福祉概論	(田崎)	U棟中講義室				司法精神医療	野村	Q101			
3限	運動心理学概論	山本	IA401	アカデミック英語 I スポーツ実践	五十嵐 佐藤(敏)	D301 第1体育館	アカデミック英語 I	五十嵐	D301	アカデミック英語 I	五十嵐	D301
4限	スポーツ・健康①	佐藤(敏)	第1体育館	臨床心理学概論	松本	U棟大講義室	教育相談論	廣瀬	U棟中講義室			
5限	ストレスと脳	領家	Q102	心理的アセスメント	小林	U棟大講義室	障害心理学	溝江、(竹尾)	U棟中講義室			
備考												

【水曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限				健康運動心理学	山本、千葉、(越智)	U棟中講義室	＜心理学実験＞	坂田・山崎・ 橋本・領家	生理学実習室			
2限	英語 I ①	五十嵐	D301	メンタルトレーニング	山本	U棟中講義室				心理実習 I	野村、松本、小林	各実習施設
3限	基礎ゼミ	心理健康学科教員	各研究室	アカデミック英語 I ドイツ語 II	五十嵐 Ebert Roland	D301 D302	アカデミック英語 I	五十嵐	D301	アカデミック英語 I	五十嵐	D301
4限												
5限												
備考												

【木曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限				アカデミック英語Ⅰ	五十嵐	Q104	アカデミック英語Ⅰ	五十嵐	Q104	アカデミック英語Ⅰ	五十嵐	Q104
2限	比較認知科学	坂田	IA402	社会心理学	廣瀬	U棟大講義室	進化・生理心理学	山崎	U棟中講義室			
3限							<専門ゼミⅠ>	心理健康学科教員 (助教除く)	各研究室			
4限	スポーツ・健康②	佐藤(敏)	第1体育館							<卒業研究A>	心理健康学科教員 (助教除く)	各研究室
5限	(b) 現代社会と経済 (b) 人間を知る	伊藤 斎藤	Q201 Q202	集団心理学	木村	U棟中講義室	介護概論	佐久間	Q203			
備考												

【金曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	英語Ⅰ②	五十嵐	D301									
2限				心理学統計法Ⅱ	橋本、領家	U棟中講義室						
3限	(b) 国民の生活と健康を支える仕組み (b) 東洋医学的養生	河野 粕谷	Q201 Q202	高齢者福祉論Ⅰ	渡邊	Q203						
4限				心理学研究法Ⅱ	橋本、領家	U棟中講義室	児童家庭福祉論Ⅰ	渡辺	Q203			
5限				感情・人格心理学	橋本、(那須)	U棟中講義室						
備考												

※以下の心理健康学科の基礎教養科目はオンデマンド(担当教員からの連絡に注意)となる。

(a) 哲学、(b) 哲学、(a) ジェンダー論、(b) ジェンダー論

※以下の心理健康学科の専門基礎科目および専門専攻科目はオンデマンド(担当教員からの連絡に注意)となる。

スポーツ心理学、競技スポーツの心理学、司法・犯罪心理学、神経生理学、生態心理学

※以下の心理健康学科の専門基礎科目および専門専攻科目は夏季集中(対面)となる。

キャンプ・カウンセリング、プロセスワーク

※以下の科目はオンデマンド(担当教員からの連絡に注意)となる。

コミュニケーション学入門、ボランティアの世界、眼の神秘、アスリートの世界、新潟水俣病の世界、臨床技術の世界、放射線の基礎と人体への影響、食を楽しむ、留学の魅力、臨床の哲学
保健医療福祉連携学、情報処理Ⅰ(必修)

※以下の科目は夏季集中(対面)となる。

地域連携学、連携総合ゼミ

※以下の科目は集中講義となる。

スポーツ・実践、研究プロジェクト演習Ⅱ、研究プロジェクト演習Ⅳ、研究プロジェクト演習Ⅵ、社会連携実践演習Ⅰ、人体の構造と機能及び疾病、心理健康科学特別講義A、心理健康科学特別講義B

〔資料14〕 完成年度の心理健康学科時間割案（令和9年度 後期）

＜凡例＞ ・青文字：全学共通科目の必修

・黒文字：全学共通科目の選択科目

・＜赤文字＞：専門基礎／専門専攻科目群の必修科目

・赤文字：専門基礎／専門専攻科目群の選択科目

・科目名の(a)(b)：講義1単位の科目(8回講義)。(a)が学期の前半開講、(b)が後半開講とする。

…全学共通科目

【月曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	韓国語Ⅰ 中国語Ⅰ スペイン語Ⅰ ドイツ語Ⅰ	黄 仁祚 斯日 古楞 Patoricia Calderon Ebert Roland	D302 D303 D305 D301	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	Q104	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	Q104	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	Q104
2限	韓国語Ⅰ 中国語Ⅰ スペイン語Ⅰ ドイツ語Ⅰ	黄 仁祚 斯日 古楞 Patoricia Calderon Ebert Roland	D302 D303 D305 D301	心理学的支援法	廣瀬	U棟中講義室	障害者福祉論Ⅱ	佐藤(洋)	Q203			
3限	＜心理学概論Ⅱ＞	坂田、山崎	U棟大講義室	福祉・家族心理学	木村、(那須)	U棟中講義室	学校臨床心理学	(那須)	IA402			
4限	(a) 日本語表現法Ⅰ (b) 日本語表現法Ⅱ	溝江	U棟中講義室	精神分析学	松本	IA402	公認心理師の職責	野村	U棟大講義室			
5限				健康・医療における コミュニケーション論	(那須)	U棟中講義室						
備考												

【火曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	(a) 新潟学 (b) 新潟学	池田	Q203 Q203	神経心理学	橋本	U棟中講義室						
	(a) 心理学の世界 (b) 心理学の世界	坂田	U棟大講義室 U棟大講義室									
2限	心理学統計法Ⅰ	山本	U棟大講義室	心理療法各論A (認知行動療法)	野村	U棟中講義室	心理演習	小林、松本	心理学実習室			
3限	(a) こどもの世界 (a) 自然人類学概論	永井 奈良	Q203 Q202	高齢者福祉論Ⅱ	渡邊	Q203	学習心理学	橋本	U棟中講義室			
	(a) アカデミック・ライティング (b) アカデミック・ライティング	廣瀬	U棟大講義室 U棟大講義室									
4限				＜心理健康基礎ゼミ＞	心理健康学科教員	各研究室						
5限	(a) シティズンシップ教育入門 (a) 統計入門 (b) 統計入門 (b) QOLの世界	佐藤(裕) 柴山 柴山 能登	K201 Q202 Q202 Q203	スポーツ心理臨床	千葉、山崎(史)	U棟中講義室	フリーフ・セラピー	小林	IA401			
備考												

【水曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	脳とこころ	橋本	U棟大講義室	感覚・知覚心理学	坂田、領家	U棟中講義室	青年心理学	(那須)	Q101			
2限	英語Ⅱ①	五十嵐	D301	認知・言語心理学	坂田	U棟中講義室	運動学習論	山本	U棟大講義室	心理実習Ⅱ	野村・松本・小林	各実習施設
3限	韓国語Ⅰ スペイン語Ⅰ ドイツ語Ⅰ	黄 仁祚 Patricia Calderon Ebert Roland	D302 D305 D301	連携基礎ゼミ	心理健康学科教員	各研究室	(b) 臨床医の世界	今村	IA301			
4限	(b) 義肢装具の世界 韓国語Ⅰ ドイツ語Ⅰ	須田 黄 仁祚 Ebert Roland	Q201 D302 D301									
5限				アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	D301	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	D301	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	D301
備考												

【木曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限				アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	D301	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	D301	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	D301
2限	心理学研究法Ⅰ	山崎	U棟中講義室	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	D301	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	D301	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	D301
3限				精神保健学	(那須野)	U棟中講義室	<専門ゼミⅡ>	心理健康学科教員 (助教除く)	各研究室			
4限										<卒業研究B>	心理健康学科教員 (助教除く)	各研究室
5限							コーチングの心理	山本、千葉	Q101			
備考												

【金曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	英語Ⅱ②	五十嵐	D301									
2限				精神医学	(松崎)	U棟中講義室						
3限	(b) 臨床医の世界	今村	IA301	精神疾患とその治療	(村山(賢))	U棟中講義室						
4限							児童家庭福祉論Ⅱ	渡辺	Q203			
5限												
備考												

※以下の心理健康学科の基礎教養科目はオンデマンド(担当教員からの連絡に注意)となる。

(a) 倫理学、(b) 倫理学、(a) 情報科学、(b) 情報科学、(a) 科学論、(b) 科学論

※以下の心理健康学科の専門基礎科目および専門専攻科目はオンデマンド(担当教員からの連絡に注意)となる。

スポーツカウンセリング、アダプテッドスポーツ論、産業・組織心理学、関係行政論、認知脳科学概論、記憶の科学

※以下の科目はオンデマンド(担当教員からの連絡に注意)となる。

チームアプローチ入門、法学Ⅰ、法学Ⅱ、加齢と身体、命の倫理、対人コミュニケーション論、国際保健の世界、データサイエンス概論
情報処理Ⅱ(必修)

※以下の科目は春季集中(対面)となる。

連携総合ゼミ

※以下の科目は土日、特殊な日程、集中開講(春季を除く)となる。

アカデミック英語Ⅲ

※以下の科目は集中講義となる。

スポーツ実践、研究プロジェクト演習Ⅰ、研究プロジェクト演習Ⅲ、研究プロジェクト演習Ⅴ、心理療法各論C(自然体験療法)、ダンス・セラピー、ボディワーク、社会連携実践演習Ⅱ、心理健康科学特別講義C

〔資料15〕

教育上必要な機械・器具等の一覧

No.	建物名	階数	室名(仮称)	機器名称	数量
1	U棟:第11研究・実習棟	4F	演習室1～5	テーブル	20
2	U棟:第11研究・実習棟	4F	演習室1～5	椅子	60
3	U棟:第11研究・実習棟	4F	演習室1～5	モニター	5
4	U棟:第11研究・実習棟	4F	演習室1～5	刺激呈示制御用PC・モニター	2
5	U棟:第11研究・実習棟	4F	演習室1～5	E-Prime3.0 心理学実験用ソフトウェア	2
6	U棟:第11研究・実習棟	4F	演習室1～5	Cedrus RB-844 心理学実験用反応キー	2
7	U棟:第11研究・実習棟	4F	演習室1～5	Davinci Resolve 18 画像編集用ソフトウェア	2
8	U棟:第11研究・実習棟	4F	演習室1～5	Davinci Resolve Speed Editor 画像編集用キーボード	2
9	U棟:第11研究・実習棟	4F	演習室1～5	Meta Quest 2 一式	2
10	U棟:第11研究・実習棟	4F	モニター室	テーブル	22
11	U棟:第11研究・実習棟	4F	モニター室	椅子	22
12	U棟:第11研究・実習棟	4F	モニター室	ネットワークカメラシステム一式	1
13	U棟:第11研究・実習棟	4F	モニター室	モニター7台	7
14	U棟:第11研究・実習棟	4F	モニター室	ホワイトボード(固定)	2
15	U棟:第11研究・実習棟	4F	モニター室	ホワイトボード(移動)	2
16	U棟:第11研究・実習棟	4F	行動観察室	デスク	4
17	U棟:第11研究・実習棟	4F	行動観察室	ホワイトボード	2
18	U棟:第11研究・実習棟	4F	行動観察室	モニター	1
19	U棟:第11研究・実習棟	4F	行動観察室	映像・音響システム一式	1
20	U棟:第11研究・実習棟	4F	行動観察室	箱庭メルコムスタートセット(173点)	1
21	U棟:第11研究・実習棟	4F	行動観察室	砂箱・砂	4
22	U棟:第11研究・実習棟	4F	行動観察室	置台	2
23	U棟:第11研究・実習棟	4F	面接実習室1～5	テーブル	5
24	U棟:第11研究・実習棟	4F	面接実習室1～5	椅子	20
25	U棟:第11研究・実習棟	4F	面接実習室1～5	プロジェクター	1
26	U棟:第11研究・実習棟	4F	面接実習室1～5	箱庭メルコムスーパーグレイトセット GPM-71	1
27	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	テーブル	16
28	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	椅子	40
29	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	防音電磁波シールドルーム	1
30	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	tobii pro グラス3	1
31	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	タッチモニター	1
32	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	生体信号収録装置 ポリメイトプロ	4
33	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	ウェーブガード スターターキット1	4
34	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	ウェーブガード脳波キャップ電極(S)(M)(L)	12
35	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	呼吸ピックアップ(胸囲用)	4
36	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	脈波センサ	4
37	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	脈波アダプタ	4
38	U棟:第11研究・実習棟	4F	生理学実習室	外部接続コード	4
39	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	デスク	88
40	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	椅子	88
41	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	日本版 KABC-II 基本セット	1
42	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	P-Fスタディ 絵画欲求不満テスト用紙 児童用第Ⅲ版(20部)	1
43	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	P-Fスタディ 絵画欲求不満テスト用紙 用紙 青年用(20部)	1
44	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	P-Fスタディ 絵画欲求不満テスト用紙 用紙 成人用第Ⅲ版(20部)	1
45	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	P-Fスタディ 絵画欲求不満テスト用紙 解説(2020年版)	1
46	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	新版TEG3 東大式エゴグラム	1
47	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	TK式個別学力アセスメントキット 検査用紙(30名分)	1
48	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	TK式個別学力アセスメントキット 新版TEG-3マニュアル	1
49	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	SASS-J 自記式社会適応度評価尺度	1
50	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	WAIS-IV知能検査	1
51	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	WPPSI-III知能検査	1
52	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	バウムテスト	1
53	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	SRQ-D II	1
54	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	新版 構文検査 -小児版-	1
55	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	新版 失語症構文検査	1
56	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	MMPI ミネソタ多面的人格目録 カード式セット	1
57	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	MMPI ミネソタ多面的人格目録 II型採点盤 基礎尺度用(14枚・採点台)	1
58	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	MMPI ミネソタ多面的人格目録 II型採点盤 追加尺度用(16枚・採点台)	1
59	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	MMPI ミネソタ多面的人格目録 冊子式II型用紙(100部)	1
60	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	K-SCT 構成的文章完成法検査	1
61	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	PVT-R絵画語い発達検査 図版	1
62	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	PVT-R絵画語い発達検査 手引	1
63	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	PVT-R絵画語い発達検査 記録用紙セット(30名分)	1
64	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	田中ビネー知能検査V 用具	1
65	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	田中ビネー知能検査V 検査法	1
66	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	田中ビネー知能検査V 記録用紙20人分	1
67	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	WISC-V知能検査	3
68	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	WMS-Rウエクスラー記憶検査	1
69	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	心理学実験供覧用器械セット	1
70	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	幼児精神発達検査器セット	1

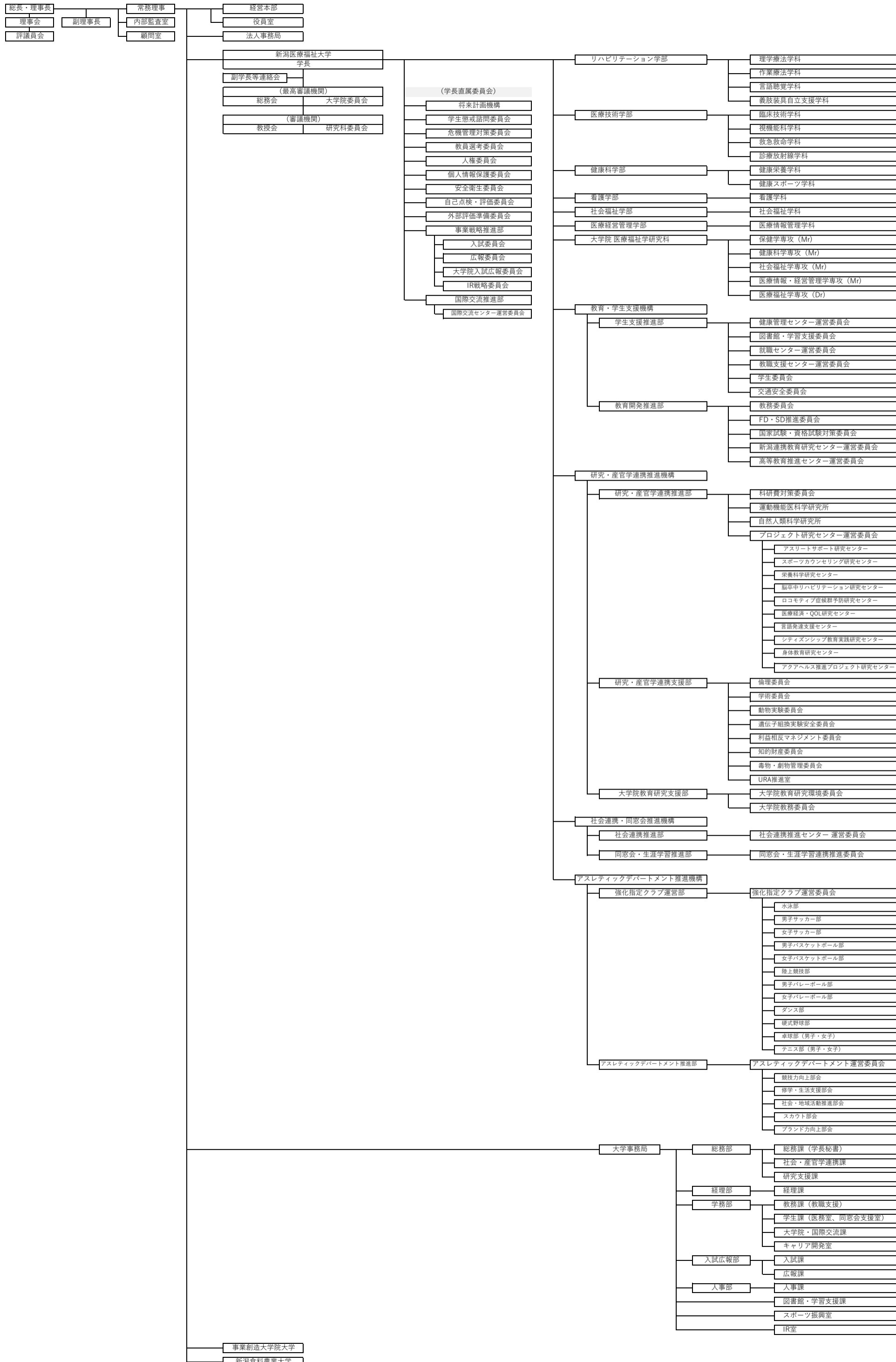
71	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	幼児発達検査器セット	1
72	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	PLM知覚-運動学習教具	1
73	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	SDS うつ性自己評価尺度 検査用紙B5	1
74	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	STAI 状態・特性不安検査 サンプルセット	1
75	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	MAS 健在生不安尺度	1
76	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	CMI 健康調査表	1
77	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	SCT 精研式 文章完成法テスト 小学生用 サンプルセット	1
78	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	SCT 精研式 文章完成法テスト 中学生用 サンプルセット	1
79	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	SCT 精研式 文章完成法テスト 高校・成人用 サンプルセット	1
80	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	MPI モーズレイ性格検査 新・性格検査法-モーズレイ性格検査-	1
81	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	MPI モーズレイ性格検査 新・性格検査法-モーズレイ性格検査- 用紙	1
82	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	MPI モーズレイ性格検査 新・性格検査法-モーズレイ性格検査- 手引	1
83	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	MPI モーズレイ性格検査 新・性格検査法-モーズレイ性格検査- 採点	1
84	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	POMS 2 日本語版	2
85	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	矢田部ギルフォード性格検査	1
86	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	津守式乳幼児精神発達検査	20
87	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	遠城寺式乳幼児分析的発達検査	2
88	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	GHQ 精神健康調査票	1
89	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	新版K式発達検査2022	2
90	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	ADOS-2 日本語版	1
91	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	SRS-2 対人応答検査	2
92	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	SRS-2 対人応答検査 幼児版検査用紙セット	1
93	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	SRS-2 対人応答検査 自動版検査用具セット	1
94	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	CCC-2子どものコミュニケーションチェックリスト	2
95	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	CCC-2子どものコミュニケーションチェックリスト 採点シート	2
96	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	CCC-2子どものコミュニケーションチェックリスト 検査用紙(30名分)	1
97	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	Vineland-II 適応行動尺度	2
98	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	Vineland-II 適応行動尺度 記録用紙	1
99	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	Vineland-II 適応行動尺度 換算アシスト	1
100	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	PARS®-TR親面接式自閉スペクトラム症評価尺度テキスト改訂版	1
101	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	PARS®-TR親面接式自閉スペクトラム症評価尺度テキスト改訂版 評定	1
102	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	conners3日本語版	1
103	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	conners3日本語版 DSM-5対応教師用用紙(5名分1組)	1
104	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	conners3日本語版 DSM-5対応本人用用紙(5名分1組)	1
105	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	conners3日本語版 マニュアル	2
106	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	conners3日本語版 マニュアル補足ガイド	1
107	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	STRAW-R 改訂版 標準読み書きスクリーニング検査-正確性と流暢性の	2
108	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	STRAW-R 改訂版 標準読み書きスクリーニング検査 課題集	2
109	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	STRAW-R 改訂版 標準読み書きスクリーニング検査 記録答案用紙小学	1
110	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	STRAW-R 改訂版 標準読み書きスクリーニング検査 記録答案用紙中学	1
111	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	STRAW-R 改訂版 標準読み書きスクリーニング検査 記録答案用紙高校	1
112	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	ポーテージ早期教育プログラム	2
113	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	ポーテージ早期教育プログラム 行動目標達成基準	2
114	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	見る力を育てるヴィジョン・アセスメントWAVES	2
115	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	ビデオカメラ	6
116	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	デジタルカメラ	6
117	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	タッチモニター	1
118	U棟:第11研究・実習棟	4F	心理学実習室	映像・音響システム一式	1

[資料16]

閲覧可能な心理系学術雑誌一覧

No.	種別	誌名	出版社	備考
1	和雑誌	カウンセリング研究	日本カウンセリング学会	新規購入
2		家族療法研究	日本家族研究・家族療法学会	新規購入
3		Interactional mind	日本ブリーフセラピー協会	新規購入
4		発達障害支援システム学研究	日本発達障害支援システム学研究	新規購入
5		学校心理学研究	日本学校心理学研究会	新規購入
1		社会心理学研究	日本社会心理学会	
2		発達心理学研究	日本発達心理学会	
3		コミュニケーション障害学	日本コミュニケーション障害学会	
4		音声言語医学	日本音声言語医学会	
5		特殊教育学研究	日本特殊教育学会	
6		心理臨床学研究	日本心理臨床学会	
7		精神療法	金剛出版	
8		臨床心理学	金剛出版	
9		精神医学	医学書院	
10		こころの科学	日本評論社	
11		発達	ミネルヴァ書房	
12		心理学研究	日本心理学会	
13		教育心理学研究	日本教育心理学会	
14		教育心理学年報	日本教育心理学会	
15		認知心理学研究	日本認知心理学会	
16		認知科学	日本認知科学会	
17		感情心理学研究	日本感情心理学会	
18		心理学評論	心理学評論刊行会	
19		性格心理学研究	日本パーソナリティ心理学会	
20		家族心理学研究	日本家族心理学会	
21		青年心理学研究	日本青年心理学会	
22		環境心理学研究	日本環境心理学会	
23		イメージ心理学研究	日本イメージ心理学会	
24		応用心理学研究	日本応用心理学会	
25		交通心理学研究	日本交通心理学会	
26		生態心理学研究	日本生態心理学会	
27		基礎心理学研究	日本基礎心理学会	
28		スポーツ心理学研究	日本スポーツ心理学会	
29		コミュニティ心理学研究	日本コミュニティ心理学会	
30		犯罪心理学研究	日本犯罪心理学会	
31		動物心理学研究	日本動物心理学会	
32		老年臨床心理学研究	日本老年臨床心理学会	
33		学級経営心理学研究	日本学級経営心理学会	
34		産業・組織心理学研究	産業・組織心理学会	
35		教授学習心理学研究	日本教授学習心理学会	
36		応用教育心理学研究	日本応用教育心理学会	
37		リハビリテーション心理学研究	日本リハビリテーション心理学会	
38		教育・社会心理学研究	日本グループ・ダイナミクス学会	
39		トランスパーソナル心理学／精神医学	日本トランスパーソナル心理学／精神医学会	
40		生理心理学と精神生理学	日本生理心理学会	
41		産業カウンセリング研究	日本キャリア・カウンセリング学会	
42		実験社会心理学研究	日本グループ・ダイナミクス学会	
1	洋雑誌	Full APA PsycArticles	American Psychological Association	新規購入
2		Biology Letters	The Royal Society	新規購入
3		Nature	Springer Nature	新規購入
4		Learning & Memory	Cold Spring Harbor Laboratory Press	新規購入
5		Psychoanalytic Electronic Publishing	Psychoanalytic Electronic Publishing, Inc	新規購入
1		Psychonomic Bulletin & Review	SpringerNature	
2		Human Movement Science	Elsevier	
3		Animal Cognition	Springer Nature	
4		American Journal of Primatology	Wiley	
5		Cognition	Elsevier	
6		Science	AAAS	
7		Behavioural Brain Research	Elsevier	
8		Journal of the Experimental Analysis of Behavior	Wiley	
9		Journal of Applied Analysis of Behavior	Wiley	
10		Experimental Brain Research	Springer Nature	
11		Cell	Cell Press	
12		Neuron	Cell Press	
13		Behavioural Processes	Elsevier	
14		Biological Psychology	Elsevier	
15		Neuroscience and Biobehavioral Reviews	Elsevier	
16		Trends in Cognitive Sciences	Cell Press	
17		International Journal of Psychophysiology	Elsevier	
18		European Journal of Neuroscience	Wiley	
19		Learning & Behavior	SpringerNature	
20		Memory & Cognition	SpringerNature	
21		Cognitive, Affective, & Behavioral Neuroscience	SpringerNature	
22		American Journal of Family Therapy	TAYLOR FRANCIS	

2022年度 学校法人新潟総合学園 新潟医療福祉大学組織図



〔資料 18〕

2022年度 FD・SD推進委員会活動実績

<委員会構成>

委員：各学科の専任教員および各部課室職員

事務局：教務課職員（委員兼任）

（計25名）

<具体的な活動実績>

1. 各種セミナー開催

① 4月4日（月）（FD）

2022年度新任教員セミナー

企画：2021年度FD・SD推進委員会

② 4月20日（水）12時20分～13時（FD）

ランチョンセミナー「大学院における複数教員での指導体制と学位審査までのプロセス」

講師：山代 幸哉 准教授（健康スポーツ学科）

能村 友紀 教授（作業療法学科）

佐藤 大輔 教授（健康スポーツ学科）

③ 5月11日（水）12時20分～13時（FD）

ランチョンセミナー「ティーチング・アシスタントFD研修」

講師：山代 幸哉 准教授（健康スポーツ学科）

山城 昌一朗 助手（健康スポーツ学科）

五十嵐 眸実（博士後期課程：大学院生）

④ 5月27日（金）12時20分～13時（FD）

ランチョンセミナー「メンタル面に関する合理的配慮」

ファシリテーター：原口 彩子 講師（社会福祉学科）

総合司会：五十嵐 紀子 准教授（作業療法学科）

⑤ 7月14日（木）12時20分～13時（FD）

ランチョンセミナー「本学での英語論文作成支援制度について」

共催：研究・産官学連携推進部 / FD・SD推進委員会

講師：豊田 典子 准教授（作業療法学科）

- ⑥ 8月23日(火) 12時20分～13時 (FD・SD)
 ランチョンセミナー「シェアかふえ」
 共催：図書館・学習支援委員会 / メンタルヘルス支援室 / FD・SD 推進委員会 共催
 ファシリテーター：五十嵐 紀子 准教授(作業療法学科)
- ⑦ 8月31日(水) 12時20分～13時 (FD・SD)
 ランチョンセミナー「NUHWの目指すSDGsについて」
 講師：富山 栄子 教授(事業創造大学院大学 地域・国際担当副学長)
- ⑧ 9月13日(火) 12時20分～13時 (FD)
 ランチョンセミナー「本学の連携教育の位置づけ～連携基礎ゼミの目的と実例～」
 共催：新潟連携教育推進センター運営委員会 / FD・SD 推進委員会
 講師：藤井 豊 准教授(臨床技術学科 / 新潟連携教育推進センター運営委員長)
- ⑨ 9月29日(木) 12時20分～13時 (FD)
 ランチョンセミナー「社会連携実践演習の現況」
 共催：社会連携推進センター運営委員会 / FD・SD 推進委員会 共催
 講師：東江 由起夫 教授(義肢装具自立支援学科)
- ⑩ 9月30日(金) 12時20分～13時 (FD・SD)
 ランチョンセミナー「オンライン授業のためのオンライン研修会
 ～PC関連のスキルアップも目指して～」
 講師：岩森 大 講師(健康栄養学科)
 高林 知也 講師(理学療法学科)
 野口 正信 (事務局 総務課)
- ⑪ 10月4日(火) 12時20分～13時 (FD)
 ランチョンセミナー「学生の社会貢献活動を支える仕組みづくり～骨髄提供を例に～」
 共催：社会連携推進センター運営委員会 / 教務委員会 / FD・SD 推進委員会
 講師：鈴木 咲緒 氏(にいがた骨髄バンク応援団 副代表)
- ⑫ 10月20日(木) 12時20分～13時 (FD・SD)
 ランチョンセミナー「シェアかふえ」Vol.2
 共催：図書館・学習支援委員会 / メンタルヘルス支援室 / FD・SD 推進委員会
 ファシリテーター：五十嵐 紀子 准教授(作業療法学科)

- ⑬ 11月16日(水) 12時20分～13時 (FD・SD)
ランチョンセミナー「“座りすぎ”がもたらす負の連鎖」
講師：田宮 創 助教(理学療法学科)
- ⑭ 11月22日(火) 12時20分～13時 (FD・SD)
ランチョンセミナー「シェアかふえ」Vol.3
共催：図書館・学習支援委員会 / メンタルヘルス支援室 / FD・SD推進委員会
ファシリテーター：五十嵐 紀子 准教授(作業療法学科)
- ⑮ 12月14日(水) 12時20分～13時 (FD・SD)
ランチョンセミナー「2025年度 新課程世代に向けた『学修者本位の入学前教育』とは～イマドキの学生の傾向と入学後の支援に向けて～」
共催：(高等教育推進センター運営委員会 / FD・SD推進委員会 共催)
講師：駒形 高広(事務局 教務課)
- ⑯ 12月22日(木) 12時20分～13時 (FD・SD)
ランチョンセミナー「シェアかふえ」Vol.4
共催：図書館・学習支援委員会 / メンタルヘルス支援室 / FD・SD推進委員会
ファシリテーター：五十嵐 紀子 准教授(作業療法学科)
- ⑰ 1月24日(火) 12時20分～13時 (FD・SD)
ランチョンセミナー「シェアかふえ」Vol.4
共催：図書館・学習支援委員会 / メンタルヘルス支援室 / FD・SD推進委員会
ファシリテーター：五十嵐 紀子 准教授(作業療法学科)
- ⑱ 1月30日(月) 12時20分～13時 (FD・SD)
ランチョンセミナー「IR室が描く未来予想図」
講師：佐藤 大輔 教授(健康スポーツ学科 / IR戦略委員会 委員長)
笹川 克己 室長(IR室長)
- ⑲ 2月15日(水) 予定 12時20分～13時(FD)
内部質保証におけるアセスメントプラン
講師：佐藤 大輔 教授(健康スポーツ学科)
山代 幸哉 准教授(健康スポーツ学科)
寺田 進志 助教(健康スポーツ学科)

2. 職員会開催

① 4月21日(木) 10時～13時 (SD)

新任職員SD研修会

講師：小野哲之 事務局長

中原英伸 事務局次長

内容：新潟医療福祉大学の職員になるということ

新潟医療福祉大学の紹介 / 学部・学科構成や特色について

SD推進委員会の取り組みについて

質疑応答

施設見学ツアー

② 5月13日(金) 13時10分～14時45分 (SD)

春の職員会

内容：2021年度総括、2022年度事務局目標について

2021年度実績報告、2022年度各部署方針・目標発表

③ 9月15日(木) 13時30分～15時30分 (SD)

秋の職員会

内容：アサーティブコミュニケーション研修

講師：川見 敦子 氏(株式会社インソース)

④ 11月21日(月) 14時～16時 (SD)

職員交流会 ～新任職員 施設見学ツアー～

3. その他

① 5月20日(金)～6月20日(月) (FD・SD)

第1回 TOEIC IPオンラインテスト実施

② 5月30日(月)～6月12日(日) (FD)

前期 前半科目 授業評価

③ 7月18日(月)～7月31日(日) (FD)

前期 後半・前期科目 授業評価

④ 8月1日(月)～8月31日(水) (FD・SD)

第2回 TOEIC IPオンラインテスト実施

⑤ 11月8日(火)～11月21日(月)(FD)

後期 前半科目 授業評価

⑥ 12月1日(木)～12月31日(土)(FD・SD)

第3回 TOEIC IPオンラインテスト実施

⑦ 1月12日(木)～1月25日(水)(FD)

後期 後半・後期・通年科目 授業評価

3. 2023年度実施予定の活動

① 4月20日(木)

新任職員SD研修会

② 5月19日(金)

春の職員会

③ 9月14日(木)

秋の職員会

科目群	専門基礎科目群
授業科目	心理学基礎実験
授業科目 (英語表記)	Fundamental Laboratory Work in Psychology

担当教員名	対象学年	2年	対象学科	心理健康学科	授業形態	実験実習・対面
◎坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	開講時期	前期	必修・選択	必修	アクティブラーニング	グループワーク/ディスカッション/プレゼンテーション
	単位数	2単位	時間数	60	使用言語	日本語

【STEPSに基づいたディプロマポリシーとの関連性】				
Science & Art 科学的知識と技術を 活用する力	Teamwork & Leadership チームワークと リーダーシップ	Empowerment 対象者を支援する力	Problem-solving 問題を解決する力	Self-realization 自己実現意欲
◎	○	◎	◎	○

【授業の概要】
 人間行動を理解するための実験的方法、データ収集の方法、及びデータをもとにした科学的論述方法について基本となるところを実習する。実験者および参加者として実験へ参加することにより体験的に学習する。ミュラー・リヤー錯視を用いた精神物理学的測定法や、語の記銘を用いた記憶の実験、ストループ課題や心的回転課題を用いた認知の実験等を体験しレポートにまとめる力をつける。個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集・解析する能力・技能を訓練し、課題の考察のために必要な理論・方法を特定する能力・技能を身に付けることを目指す。自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問などにも回答できる能力・技能を獲得できるようにする。

【授業の目的】
 個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集・解析する能力・技能を訓練し、課題の考察のために必要な理論・方法を特定する能力・技能を身に付けることを目指す。

【学習目標】
 ・個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集・解析する能力・技能
 ・課題の考察のために必要な理論・方法を特定する能力・技能
 ・自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問などにも回答できる能力・技能を獲得できるようにする。

回数	授業計画・学習の主題	授業形態・事前事後学習 学習課題・備考	事前 学習 時間 (分)	事後 学習 時間 (分)	担当教員
1	第1回 心理学における尺度:実験とは何か(以降15回まで毎回対面で実施)	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「尺度」について理解を深めること。 事前事後学習:毎回事前に配布する資料について事前学習を行い、授業後に課題の振り返りを行う	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
2	第2回 レポート指導①	授業形態:実験実習・対面 学習課題:レポートの書き方(構成と引用文献)について理解すること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に実際にやってみた文献検察と引用文献の書き方についてのレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
3	第3回 精神物理学①:ミュラーリヤーの錯視	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「精神物理学」の書き方を特に理解すること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に実習の結果をまとめてレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
4	第4回 精神物理学②:ミュラーリヤーの錯視	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「精神物理学」及び「図表と結果」の書き方を特に理解すること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に精神物理学的測定法を用いた実験結果の図表を書いてレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
5	第5回 記憶①:語の記銘	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「記憶過程」の書き方を特に理解すること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に記憶過程に関するレポートを書き方に注意して提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
6	第6回 記憶②:語の記銘	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「記憶過程」及び「方法」の書き方を特に理解すること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に方法の書き方に注意して記憶過程に関するレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
7	第7回 認知①:ストループ効果	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「認知過程」及び「序論」の書き方を特に理解すること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に序論の書き方に注意してレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵

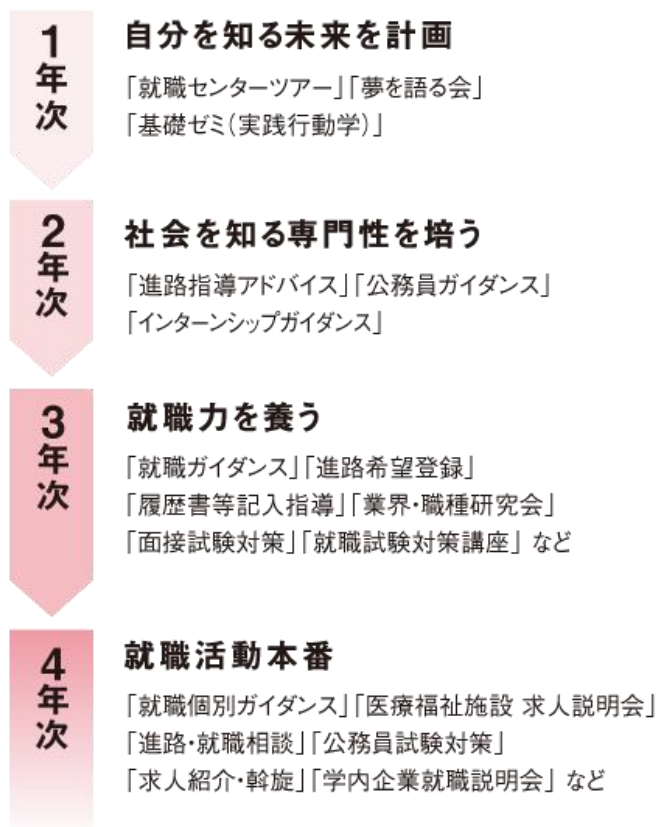
8	第8回 認知②:心的回転	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「心理的意味」及び「序論」の書き方を特に理解すること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に序論の書き方を理解して心理的意味に関するレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
9	第9回 レポート指導②	授業形態:実験実習・対面 学習課題:採点され、赤が入れたレポートを充分見直し、今後の授業におけるレポート作成に役立てること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に書き直したレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
10	第10回 臨床①:ビックファイブと不安の測定	授業形態:実験実習・対面 学習課題:主観の測定方法としての「リッカート法」および個人特性の測定方法について理解を深めること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後にリッカート法および個人特性の測定方法についてのレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
11	第11回 臨床②:画像に対する感情の測定	授業形態:実験実習・対面 学習課題:感情の測定方法としての「VAS法」、「プロフィールの書き方」を理解すること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後にVAS法についてのレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
12	第12回 行動観察:ラットの行動観察	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「行動形成法」及び「行動観察法」、特に「時系列の図表」について理解を深めること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に行動形成法について時系列的变化を中心にレポートを書いて提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
13	第13回 社会行動:社会的促進	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「社会的促進」の原理について理解を深め、全体構成を考慮したレポートが書けるようになること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に社会的促進についてレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
14	第14回 社会行動:社会的抑制	授業形態:実験実習・対面 学習課題:「社会的抑制」及び「社会心理学的実験」の原理について理解を深めること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に社会心理学的実験のレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
15	第15回 講評	授業形態:実験実習・対面 学習課題:これまでの個々の実験において配布された資料を充分に見直し、目的に沿った実験法を適切に使い分けるために必要な理解を深めること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に全体まとめを書いたレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格>	<備考>
教科書 (必ず購入する書籍)		心理学基礎実習マニュアル 心理学のためのデータ解析テクニカルブック	宮谷真人・坂田省吾(編著) 森敏昭・吉田寿夫(編著)	北大路書房 北大路書房	2009 1990	
参考書						
その他の資料						
【評価方法】 実験実習における決められた手順にしたがった受講態度(50%)及び毎回提出をを求めるレポートの内容(50%)により総合的に評価する。			【再試・追加指導】 レポートの再提出を求める		【履修上の留意点】 初回授業で配付する資料にしたがった決まり事を守って下さい。受講態度の評価点もこれらの点に基づいて評価されます。	
【オフィスアワー・連絡先】 科目責任者 坂田研究室 月曜日 4限(14時50分～16時20分)						

科目群	専門基礎科目群						
授業科目	心理学実験						
授業科目 (英語表記)	Experimental Methods in Psychology						
担当教員名	対象学年	3年	対象学科	心理健康学科	授業形態	実験実習・対面	
◎坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	開講時期	前期	必修・選択	必修	アクティブラーニング	グループワーク/ディスカッション/プレゼンテーション	
	単位数	2単位	時間数	60	使用言語	日本語	
【STEPSに基づいたディプロマポリシーとの関連性】							
Science & Art 科学的知識と技術を 活用する力	Teamwork & Leadership チームワークと リーダーシップ	Empowerment 対象者を支援する力	Problem-solving 問題を解決する力	Self-realization 自己実現意欲			
◎	○	◎	◎	○			
【授業の概要】 人間行動を実験的に解明するための実験的手法や技術について、実習する。また、人間行動を実証的に解明するための調査的手法や技術を学ぶ。グループ単位で具体的に研究テーマを決めて質問紙調査を実施することによって、質問紙調査を用いた研究の立案から研究成果のプレゼンテーションに至る一連の過程も学ぶ。個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集・解析する能力・技能を訓練して課題の考察のために必要な理論・方法を特定する能力・技能を養う。また、自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問などにも回答できる能力・技能の獲得を目標とする。							
【授業の目的】 個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集・解析する能力・技能を訓練して課題の考察のために必要な理論・方法を特定する能力・技能を養う。これらにより、実験計画の立案、実験データの収集とデータ処理、実験結果の解釈と報告書の作成、ができるようにする。後半は研究計画の立案から研究成果の発表までの一連の作業をグループ単位で行うが、最終的には個人でレポートを作成する。							
【学習目標】 実験計画の立案、実験データの収集とデータ処理、実験結果の解釈と報告書の作成ができるようにする。自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問などにも回答できる能力・技能の獲得を目標とする。							
回数	授業計画・学習の主題	授業形態・事前事後学習 学習課題・備考			事前 学習 時間 (分)	事後 学習 時間 (分)	担当教員
1	第1回 オリエンテーション・実験計画法1(研究倫理/引用文献の書き方)	授業形態:実験実習・対面 学習課題:研究倫理について自分で考えて納得しよう。引用文献の書き方を身につけよう。 事前事後学習:毎回事前に配布する資料について事前学習を行い、授業後に課題の振り返りを行う			60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
2	第2回 実験計画法2(文献検索法)	授業形態:実験実習・対面 学習課題:インターネットで文献を検索するスキルを身につけよう。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に実際にやってみた文献検索についての小レポート提出			60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
3	第3回 実験計画法3(実験の計画と実施)	授業形態:実験実習・対面 学習課題:適切な実験研究計画の立て方を理解しよう。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に実習の結果をまとめてレポート提出			60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
4	第4回 実験計画法4(要因計画と交互作用モデル)	授業形態:実験実習・対面 学習課題:分散分析の交互作用の意味を理解しよう。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に模擬データを元にした分散分析を実施した結果から交互作用についてレポート提出			60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
5	第5回 生理心理学実験法	授業形態:実験実習・対面 学習課題:生理心理学における実験の方法と意義を理解しよう。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に生理心理学に関するレポート提出			60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
6	第6回 精神生理学実験法	授業形態:実験実習・対面 学習課題:精神生理学における実験の方法と意義を理解しよう。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に精神生理学に関するレポート提出			60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵
7	第7回 認知心理学実験法	授業形態:実験実習・対面 学習課題:認知心理学における実験の方法と意義を理解しよう。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に認知心理学に関するレポート提出			60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵

8	第8回 学習心理学実験法	授業形態:実験実習・対面 学習課題:学習心理学における実験の方法と意義を理解しよう。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に学習心理学に関するレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
9	第9回 レポート指導②	授業形態:実験実習・対面 学習課題:採点され、赤が入れられたレポートを充分見直し、今後の授業におけるレポート作成に役立てること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に書き直したレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
10	第10回 調査研究法(1)	授業形態:実験実習・対面 学習課題:調査法についての理解を深める。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に調査法についてのレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
11	第11回 調査研究法(2)	授業形態:実験実習・対面 学習課題:調査法についての理解を深める。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に調査法についてのレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
12	第12回 調査法を用いた調査計画の立案(1)	授業形態:実験実習・対面 学習課題:グループ・ディスカッションによって作成する尺度を決定する。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に調査法を用いた調査計画の立案を書いたレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
13	第13回 調査法を用いた調査計画の立案(2)	授業形態:実験実習・対面 学習課題:グループ・ディスカッションによって研究目的と仮説を立てる。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に研究目的と仮説を書いたレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
14	第14回 調査の実施	授業形態:実験実習・対面 学習課題:仮説検討に適した調査票を作成し、調査を実施する。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に調査実施までの方法を書いたレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
15	第15回 講評	授業形態:実験実習・対面 学習課題:これまでの個々の実験において配布された資料を充分に見直し、目的に沿った実験法を適切に使い分けるために必要な理解を深めること。 事前事後学習:配布資料について事前学習を行い、授業後に全体まとめを書いたレポート提出	60	180	坂田省吾、山崎由美子、橋本照男、領家理恵	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格>	<備考>
教科書 (必ず購入する書籍)		Excelで今すぐはじめる心理統計 質問紙調査の手順	小宮あすか・布井雅人 小塩真司・西口利文(編)	講談社 ナカニシヤ出版	2018 2007	
参考書						
その他の資料						
【評価方法】 随時提出を求めるレポートの内容(50%)及び課題の取り組みに対する受講態度(50%)によって評価を行う。		【再試・追加指導】 レポートの再提出を求める		【履修上の留意点】 レポートに対する講評と解説を通じて、データ分析や結果のまとめ方を見直し、より適切なレポートを作成すること。また、研究成果を発表用資料に簡潔にまとめる方法を理解すること。研究成果の発表と討論を通してプレゼンテーションに必要な情報呈示の仕方についての理解を深めること。		
【オフィスアワー・連絡先】 科目責任者 坂田研究室 月曜日4限(14時50分～16時20分)						

[資料 20]

□就職支援スケジュール



□就職支援体制

